

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 目次

第1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
1	学生確保の見通し	2
	(ア) 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	2
	(イ) 地域・社会的動向等の現状把握	2
	(ウ) 新設学科等の趣旨目的, 教育内容, 定員設定等	3
	(エ) 学生確保の見通し	4
	A. 学生確保の見通しの調査結果	4
	① 本学在学学生(学部生)に対するアンケート調査(資料1)	5
	② 本学在学学生(大学院修士課程)に対するアンケート調査(資料5)	6
	③ 石川県内ものづくり関連企業に勤める従業員に対するアンケート調査 (資料9)	7
	④ 海外協定校及び共同研究関連校等に対するアンケート調査(資料13)	8
	B. 新設学部等の分野の動向(参考1参照)	8
	C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等	9
	D. 競合校の状況(参考1参照)	10
	E. 既設学部等の学生確保の状況	10
	F. その他、申請者において検討・分析した事項	11
	(オ) 学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果	11
第2	人材需要の動向等社会の要請	12
1	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	12
2	上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの 客観的な根拠	12
	石川県内ものづくり関連企業に対するアンケート調査(資料19)の結果の分析	13

## 第1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### 1 学生の確保の見通し

#### (ア) 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

本学は、令和4年度に生産システム科学専攻、ヘルスケアシステム科学専攻、およびグローバル文化学専攻の3専攻から構成される大学院サステイナブルシステム科学研究科（修士課程）を設置している。今回の申請は、令和6年度に博士後期課程を設置し、それに伴い修士課程を博士前期課程に名称変更するために行う。

令和4年度に開設した大学院生産システム科学専攻（修士課程）の初年度の入学者数は、入学定員15人に対して、16人（定員充足率106.7%）であった。この16人の内訳は、全員が内部進学者であった。令和5年度の生産システム科学専攻の入学生については、現時点で20人の志願者があり、16人が合格している。そのうち、内部進学者は8割強であり、2割弱が他大学からの合格者である。しかし、合格者の内、他大学へ流出する恐れもあるため、今後、更に募集を行い、外国人留学生を含めた入学生受入れを予定している。

地域と世界の持続性に係る課題解決に向けて先導的な役割をはたすことをミッションとする大学院構想において、持続性に係る諸課題の解決に至るためには、より高度な専門性を有する人材育成を行うため、博士後期課程における教育研究が必須であり、その基盤となる修士課程における2年目の学生確保を現在進めている。

#### (イ) 地域・社会的動向等の現状把握

本学が立地する小松市の特色を概観すると、まず世界有数の企業である株式会社コマツをはじめとする「ものづくり」産業の一大集積地であり、産業機械から繊維、電子機器まで幅広い多様なものづくり企業が存在している。また、全国的に人口は減少、高齢者の人口比率が高まり、現役担い手世代が急減している中、小松市は、全国介護・高齢化対応度調査（令和2年）で815市区中、日本一（『日経グローバル』令和2年10月）と評価され、高齢者健康福祉のモデル地域となっている。また、小松空港に加え、北陸新幹線の敦賀延伸により広域交流のための基盤が拡充し、有形無形の地域資源や観光、異文化理解、情報発信のニーズが高まっている。

小松市は、令和4年3月に「小松市SDGs未来都市計画」を策定している。その計画では、「国際系、工学系、医療系の三学問領域を有する公立小松大学が、SDGsの精神に合致した教育研究を実施し、ふるさと小松と世界で活躍し、かつ指導的役割を果たす高度専門人材を育成する」ことに強い期待が示された。

また、中央教育審議会は平成30年11月26日、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」において「地域との連携」の重要性を謳い、「公立大学の役割」として「それぞれの地域における社会・経済・文化の向上発展への貢献から国際社会への貢献まで幅広く含め、様々な教育・研究・社会貢献機能のより一層の強化が求められる。」と明

記している。

### (ウ) 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

・(ア)や(イ)で分析した課題に対して新設学科等がどのように貢献できるのか。

生産システム科学の分野では、南加賀を中心とする「ものづくり」産業の一大集積地で、新しい生産システム、サプライ・バリューチェーンの構築や自然環境の維持や持続可能なエネルギーの利用・供給の拡大に向けた取り組みが必要になっており、それらの課題解決に向けた高度人材育成が必須となっている。このことを踏まえて、本研究科博士後期課程においては、以下のカリキュラム・ポリシーを設定し、工学系（ものづくり系）の高度な専門能力を備えた研究者・教育者・組織指導者を養成する。

- 生産システムの研究開発や「ものづくり」の観点から、人類の持続的発展のための諸課題を明らかにし、機械工学、情報工学、電子電気工学といった専門分野において、それら課題の解決と社会実装に向けての能力を育成する。
- 持続可能な社会の実現のための課題に対して自専攻以外の研究者と専門を越えて連携・協働し、新しい「ものづくり」を構築できる柔軟かつ幅広い総合的な研究能力を修得する。
- 持続可能かつ強靱な生産システムの研究開発のため、省エネルギー・省資源に適合した製造技術や ICT・IoT・AI などのデジタル技術を活用できる高度な能力を修得する。
- 地域・国際社会で活躍できる資質を涵養するため、地域産業における持続的発展のための「ものづくり」の課題から世界が遭遇する課題を発見、その解決によって国際的に通用する「ものづくり」技術を修得する。

・定員設定の理由

本学において、地域のニーズを踏まえて、令和4年度に修士課程を設置したサステイナブルシステム科学研究科において募集状況は良好であるが、接続する博士後期課程の設置にあたっては、産業、行政、保健医療福祉などの分野で持続可能性に向けた課題の発見と解決を担いうる高度専門人、教育研究者、組織の指導者の育成をめざすことから、修士課程の生産システム科学専攻の入学定員が15人に対し、博士後期課程の入学定員は、2人という少人数で設定した。

・今、専攻を新設しなければならない理由

地域と世界の持続性に係る課題解決に向けて先導的な役割をはたすことをミッションとする大学院構想として、本研究科が目標とするサステイナビリティは、人類の将来にわたり追求するものである。国連が定めた2030年までの行動計画（SDGs）以降も幾世代にもわたって地域と世界の持続性に貢献するためには、創造性と指導力に富み、社会実装を含む具体的な課題解決能力を備えた高度専門人材を養成する博士後期課程の設置が必須である。

この考えに一致し、生産システム科学専攻においては、ものづくり企業が集積している

南加賀地域において、特に工学系の分野で活躍できる高度専門能力を有する人材が必要とされていることが企業へのアンケート調査（資料17）でも明らかになっている。

・新設学科等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

本学の授業料及び入学料は、国立大学の標準額に準じて設定しており、現在の本学部及び大学院修士課程と同額である。入学料については市内者を282,000円、市外者を423,000円と設定している。（市内者とは、入学者本人又は保護者が、入学前年の4月1日以前から引き続き小松市内に住所を有している者である。）また、学業優秀で家庭の経済事情等により授業料の納付が困難であるなどの一定の要件を満たした学生に対して、授業料および入学金を減免する制度を設けており、学生の経済的な負担についての配慮を行っている。

生産システム科学専攻とヘルスケアシステム科学専攻については、教育研究のための教育設備や実験と実習のための経費の一部として、実習費50,000円を設定する。

（表1）[本学と近隣の他大学の学生納付金一覧]

大学院名	研究科名	入学料	授業料
公立小松大学大学院	サステイナブルシステム科学研究科	(市内) 282,000 円 (市外) 423,000 円	585,800 円
金沢大学大学院	自然科学研究科 医薬保健学総合研究科 人間社会環境研究科	282,000 円	535,800 円
金沢工業大学大学院	工学研究科	250,000 円	1,011,000 円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	282,000 円	535,800 円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	(県内) 282,000円 (県外) 423,000円	535,800 円

（エ）学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

入学意向

本学大学院（博士後期課程）のサステイナブルシステム科学研究科では、実践的な教育・研究を実施することから、少人数での教育が主であると考え、生産システム科学専攻の入学定員を2人とする。この定員設定については、教育方法や環境に加えて、競合他大学院の動向、大学生、大学院生、および企業・団体等を対象としたアンケート調査の結果、社会的な需要などを踏まえて設定しているので定員充足に問題がないと判断している。

本学大学院の入学定員を設定するにあたって、入学希望の状況等を把握するため、本学学部生（1～4年）及び大学院生（修士課程1年）、石川県内ものづくり関連企業等に勤める従業員対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するウェブアンケート」を実施した（資料1・資料5・資料9）。また、本学の協定校及び共同研究関連校等であ

る海外の大学を対象に入学意向のアンケート調査を実施した（資料 13）。さらに、中長期的な学生確保の見通しを得るため、県内の本学大学院に類似する近隣大学における大学院博士後期課程へ入学状況、大学内部の進学率について調査を行った（参考 1）。

#### 【公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート実施概要】

＜進学意向調査（本学の生産システム科学部生）＞（資料 1）

調査対象：公立小松大学の全学生（生産システム科学部 1～4 年、全 336 人）

実施時期：令和 4 年 11 月

回答状況：70 人（回答率：21%）

＜進学意向調査（本学の大学院生）＞（資料 5）

調査対象：公立小松大学の大学院生

（生産システム科学科専攻 修士課程 1 年、全 16 人）

実施時期：令和 4 年 11 月

回答状況：11 人（回答率：69%）

＜入学意向調査（石川県内企業、商社等）＞（資料 9）

調査対象：石川県内のものでつくり関連企業に勤務する従業員（78 企業）

実施時期：令和 4 年 12 月

回答状況：30 人（回答率：38%）

＜入学意向調査（海外協定校及び共同研究関連校等）＞（資料 13）

調査対象：海外協定校及び共同研究関連校等

実施時期：令和 4 年 12 月

回答状況：1 校

#### ①本学在学学生に対するアンケート調査（資料 1）

本学大学院（博士後期課程）の入学定員を設定するにあたり、大学院（博士後期課程）が設置された場合の入学希望状況等を把握するため、本学生産システム科学部 1～4 年生を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート」を実施した。

（調査結果）

本学大学院（博士後期課程）生産システム科学専攻への興味・関心を尋ねる設問（問 6）において、回答者（46 人）のうち、「大いに興味・関心がある」が 10 人（22%）、「興味・関心がある」が 12 人（26%）、「少し興味・関心がある」が 20 人（43%）と、計 42 人（91%）が興味・関心を示している。そのうち、生産システム科学専攻を受験し合格した場合の入学意向を尋ねると（問 10）、入学定員 2 人に対し、23 人の回答者のうち「入学したい」が 7 人（31%）、「条件が整えば入学したい」が 7 人（30%）、「将来必要があれば入学を検討したい」が 9 人（39%）であり、入学定員に対し入学希望を示す回答が十分にあったと判断できる。なお、長期的な需要を調査するため、一旦就職した後の大学院（博士後期課程）進

学希望について尋ねた設問(問5)において、「機会があれば進学を希望する」との回答が13人、「就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する」との回答が18人、「仕事と勉学の両立ができれば進学を希望する」との回答が4人という結果であった。将来的にも大学院(博士後期課程)の進学に前向きであることが確認できた。問7において本学大学院(博士後期課程)について興味・関心があると回答した方(42人)に、興味・関心がある理由を尋ねると、「専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから」が38件と最も多く、次いで「新しい視点からの研究ができそうだから」が24件となっており、キャリアアップのための学びや新たな観点による研究に対する需要があることが確認できた。

(資料1抜粋)

調査学科	生産システム科学科
希望先	生産システム科学専攻
興味・関心	42人
受験を希望する	23人
入学したい	7人
条件を整えば入学したい	7人
将来必要があれば入学を検討したい	9人
<b>入学定員</b>	<b>2人</b>

## ②本学在学学生(大学院修士課程)に対するアンケート調査(資料5)

本学大学院(博士後期課程)の入学定員を設定するにあたり、大学院(博士後期課程)が設置された場合の入学希望状況等を把握するため、生産システム科学専攻の大学院生(修士課程)1年生を対象に「公立小松大学大学院(博士後期課程)設置に関するアンケート」を実施した。

(調査結果)

本学大学院(博士後期課程)への興味・関心を尋ねる設問(問6)において、回答者(10人)のうち、「大いに興味・関心がある」が3人(30%)、「興味・関心がある」が4人(40%)、「少し興味・関心がある」が2人(20%)と、計9人(90%)が興味・関心を示している。そのうち、生産システム科学専攻を受験し合格した場合の入学意向を尋ねると(問10)、入学定員2人に対し、7人の回答者のうち「入学したい」が1人(14%)、「条件を整えば入学したい」が3人(43%)、「将来必要があれば入学を検討したい」が3人(43%)であった。なお、長期的な需要を調査するため、一旦就職した後の大学院(博士後期課程)進学希望について尋ねた設問(問5)において、「機会があれば進学を希望する」との回答が1人、

「就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する」との回答が3人、「仕事と勉学の両立ができれば進学を希望する」との回答が1人という結果であった。将来的にも大学院（博士後期課程）の進学に前向きであることが確認できた。また、問7において本学大学院（博士後期課程）について興味・関心があると回答した方(9人)に、興味・関心がある理由を尋ねると、「専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから」が8件と最も多く、次いで「新しい視点からの研究ができそうだから」が3件、「大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから」が3件となっており、キャリアアップのための学びや新たな観点による研究や希望する研究に対する需要があることが確認できた。

(資料5 抜粋)

調査学科	生産システム科学専攻 (修士課程)
希望先	生産システム科学専攻
興味・関心	9人
受験を希望する	7人
入学したい	1人
条件が整えば入学したい	3人
将来必要があれば入学を検討したい	3人
<b>入学定員</b>	<b>2人</b>

### ③石川県内ものづくり関連企業に勤める従業員に対するアンケート調査（資料9）

本学大学院（博士後期課程）の入学定員を設定するにあたり、本学大学院（博士後期課程）が設置された場合の入学希望状況等を把握するため、石川県内ものづくり企業等に勤める従業員を対象として本学大学院(博士後期課程)設置の趣旨や概要の説明資料を添付したうえで、「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するウェブアンケート」調査を実施した。

#### (調査結果)

本学大学院（博士後期課程）への興味・関心を尋ねる設問(問5)において、回答者(30人)のうち、「大いに興味・関心がある」が10人(33%)、「興味・関心がある」が11人(37%)、「少し興味・関心がある」が9人(30%)と、計30人回答者全員が興味・関心を示している。

そのうち、生産システム科学専攻を受験し合格した場合の入学意向を尋ねると(問9)、入学定員2人に対し、11人の回答者のうち「入学したい」が2人(18%)、「条件が整えば入学したい」が6人(55%)、「将来必要があれば入学を検討したい」が3人(27%)であった。入学の条件については、「平日夜間・休日昼間の授業の開講」や「社会人特別選抜等の入学試験の導入」、「奨学金等の金銭的支援」等の必要性が示唆された。本学大学院（博

士後期課程)では、仕事に従事しながら学修を望む社会人大学院生への学修機会の提供を目的とし、社会人特別選抜、長期履修学生制度及び昼夜開講制度を設け、社会人が仕事を継続しながら学修できる環境を整えている。また、問5において本学大学院(博士後期課程)について興味・関心があると回答した方(30人)に、興味・関心がある理由を尋ねると(問6)、「新しい視点からの研究ができそうだから」が28件と最も多く、次いで「専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから」が25件となっており、キャリアアップのための学びや新たな観点による研究に対する需要があることが確認できた。また、自由記述欄には、「大変素晴らしい計画なので、是非設置を推進して頂きたいと思います。」「自分の子供が将来、選択肢として選べることはいいことだと思いました。」「地域と連携し、地域課題の解決に取り組んで頂きたい。」「新たな研究環境が整備されるのは良いことだと思います。」「ぜひ、設置が実現した際には入学を検討させていただきたいと考えております。」「社会人に学問の門戸を広げるためにはよいと思う。ぜひ、進めてより良い大学院にしてほしい。」といった、大学院(博士後期課程)生産システム科学専攻の設置を期待する意見があった。このアンケート結果より、本学大学院(博士後期課程)生産システム科学専攻の設置に対しては、石川県内ものづくり関連企業において社会人の入学が見込まれると考えている。

#### ④海外協定校及び共同研究関連校等に対するアンケート調査(資料13)

本学大学院(博士後期課程)生産システム科学専攻では、外国人留学生を入学者として受け入れる計画をしている。そこで、本学の協定校及び共同研究関連校である海外の大学を対象に、本学大学院(博士後期課程)生産システム科学専攻への進学意向のアンケート調査を実施した。

(調査結果)

有効回答として1大学からの回答を得た。その結果、本学大学院(博士後期課程)への入学希望者の推定人数について尋ねた設問に対しては、生産システム科学専攻へ、1年ごとに1人以上(5年間に7人入学)の留学生を入学させたいという回答があった。

#### B. 新設学部等の分野の動向 (参考1参照)

大学院修士課程の修了者を輩出していない本学が中長期的な大学院(博士後期課程)への入学生の確保を見通すため、本学の大学院と類似する専攻を有する石川県内の近隣大学3校[国立大学(金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学)と私立大学(金沢工業大学)]における過去3年間の大学院博士後期課程への入学人数と定員充足率の平均値を調査した。

算出の結果、国立大学の金沢大学大学院自然科学研究科自然システム学専攻の博士後期課程の令和2年度から令和4年度までの3年間の入学人数と定員充足率の平均値は、それぞれ10人(定員21人)および51%、機械科学専攻はそれぞれ12人(定員25人)および51%、電子情報科学専攻はそれぞれ10人(定員18人)および57%であった。金沢工業大

学大学院工学研究科機械工学専攻はそれぞれ1人（定員5人）および27%、と電気電子工学専攻はそれぞれ1人（定員6人）および22%、であった。以上の調査結果ならびに調査対象とした3大学の学部または修士課程の入学定員数が本学の生産システム科学部または生産システム科学専攻（修士課程）の入学定員数よりも多いことを考慮し、生産システム科学専攻の博士後期課程の入学定員を2人に設定している。

### C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等（資料9、資料21、参考1）

「文部科学省令和3年度学校基本調査（確定値）の公表について」（資料21 赤枠参照）の修士課程修了者の大学院等への進学率は、平成22年の12.4%から減少傾向にあり、平成24年から10年間、10%前後のほぼ横ばいの状態が続いている。また、修了者に占める就職者の割合は、75%前後、修了者数は約73,000人前後の状態が約10年間続いている。本学大学院（修士課程）生産システム科学専攻に進学率を当てはめると、入学定員15人に対して10%の1人以上が進学する可能性がある。

また、本学の大学院と類似する専攻を有する石川県内の近隣大学3校〔国立大学（金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学）と私立大学（金沢工業大学）〕における修士課程（博士前期課程）と博士課程（博士後期課程）の入学定員と修士課程修了者の進学率（内部進学率）を調査した。（参考1）金沢大学大学院の博士前期課程と博士後期課程の入学定員は、自然科学研究科自然システム学専攻はそれぞれ67人と21人、機械科学専攻はそれぞれ90人と25人、電子情報科学専攻はそれぞれ67人と18人であった。金沢工業大学大学院工学研究科機械工学専攻と情報工学専攻の博士前期課程と博士後期課程の入学定員は、それぞれは18人と5人、電気電子工学専攻は18人と6人であった。北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科の博士前期課程と博士後期課程の入学定員は、それぞれは282人と90人である。3大学とも、修士課程（博士前期課程）の定員数の約3割を博士課程（博士後期課程）の定員数に設定している。一方で、令和2年度から令和4年度までの3年間の内部進学率の平均値は、金沢大学と北陸先端科学技術大学院と金沢工業大学で、それぞれ4%と16%と1.3%と低い値であった。このように、低い内部進学率であることと、先に記述した「文部科学省令和3年度学校基本調査（確定値）の公表について」（資料21）の修士課程修了者の大学院等への進学率の低い割合から博士後期課程の定員充足率を維持するためには、社会人大学院生及び外国人留学生の確保が重要になる。

また、「石川県内のものづくり関連企業に勤める従業員に対するアンケート調査」（資料9）に詳述した通り、ものづくり関連企業従業員の中に、「平日夜間・休日昼間の授業の開講」や「社会人特別選抜等の入学試験の導入」、「奨学金等の金銭的支援」などの本学の大学院（博士後期課程）が対応できる配慮があれば、本学の大学院（博士後期課程）へ社会人大学院生として進学を希望する者が複数人いると考えられる。従って、本学の大学院（博士後期課程）の生産システム科学専攻は、中長期的に石川県内のものづくり関連企業等から社会人入学者も確保できると考えている。

#### D. 競合校の状況（参考1参照）

本学大学院（博士後期課程）生産システム科学専攻は、機械工学を基盤として、電気・電子工学さらには情報科学などの関連分野を融合した専攻である。これらの分野に類似した専攻を持つ競合校として石川県内の近隣大学には3大学ある。まず、金沢大学大学院は自然システム学専攻、機械科学専攻、電子情報科学専攻があり、本学大学院と競合する専攻を有している。北陸先端科学技術大学院大学と金沢工業大学大学院は理工系であり、本学大学院の専攻と競合している。本学大学院（博士後期課程）への中長期的な入学生の確保を見通すため、本大学院と類似する専攻を有する石川県内の近隣大学における大学院博士後期課程への志願状況等について調査を行い、過去3年間の3大学における定員充足率を平均値化して算出した（参考1）。

算出の結果、本学大学院生産システム科学専攻に対応する他大学の類似する各専攻では、過去3年間の入学者の平均定員充足率は約5割であった。一方、先に記述した通り、各専攻の修士課程（博士前期課程）の定員の約3割が博士後期課程の定員となっている。したがって博士後期課程の入学者数は修士課程（博士前期課程）の定員の約1.5割の入学者数となっている。これを本専攻に当てはめると修士課程の定員が15人なので博士後期課程入学者は2人（ $15 \text{人} \times 0.15 = 2.25 \text{人}$ ）が見込めることとなる。日本における工学系の大学院では博士課程学生の充足率が低いことが課題となっている。将来、国際および地域社会において指導的役割を果たすことのできる人材を育成するためにも、入学定員の設定が重要であると考え、石川県内近隣大学の競合校の充足率等を参考にした結果、本学大学院（博士後期課程）の生産システム科学専攻の入学定員を2人の設定で充足できると判断している。

#### E. 既設学部等の学生確保の状況

令和4年度に開設した大学院生産システム科学専攻（修士課程）の初年度の入学者数は、入学定員15人に対して16人であった（定員充足率106.7%）。この16人の内訳は、全員が内部進学者であった。

令和5年度の実験システム科学専攻の入学生については、現時点で、内部進学者9人と他大学からの進学者2人の計11人が大学院入試に合格し入学する予定である。今後、更に募集を行い、外国人留学生を含めた入学生受入れを予定している。

大学院修士課程1年生（R4年度）

	生産システム科学専攻 15人（入学定員）
志願者数	19人
受験者数	18人
合格者数	18人
入学者数	16人

## F. その他、申請者において検討・分析した事項

本学大学院の入学定員を設定するにあたって、入学希望の状況等を把握するため、本学の学部生（1～4年生）及び大学院生（修士課程1年生）、石川県内ものづくり関連企業に勤める従業員を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するウェブアンケート」を実施した（資料1・資料5・資料9）。その結果、興味関心を持ち、受験に合格した場合入学したいと回答した者の人数は10人であった。また、本学の協定校及び共同研究関連校等である海外の大学を対象に入学意向のアンケート調査を実施した（資料13）。その結果では、毎年1人は入学の可能性がある者がいることが期待された。以上のことから生産システム科学専攻の入学定員2人に対し、入学の可能性がある者は11人と推定される。また、中長期的な学生確保の見通しを得るため、本学の大学院と類似する専攻を有する石川県内の近隣大学における大学院博士後期課程への、過去3年間の定員充足率や内部進学率の調査（参考1）より、博士後期課程の定員充足率を維持するためには、社会人大学院生及び外国人留学生の確保が重要になることが支持された。

（資料1, 5, 9, 13 抜粋） 単位：（人数）

	学部生	大学院生	企業の 従業員	海外協定校	計
（興味関心→受験希望→入学したい）	7	1	2	1.4	11.4
（興味関心→受験希望→条件が整えば入学したい）	7	3	6	—	16
計	14	4	8	1.4	27.4

## （オ）学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果

本学の大学院（博士後期課程）の学生確保に向け、修士課程からの進学者及び社会人学生の確保に向けた取組を中心に行っていく予定である。前者については、新学期のオリエンテーションやガイダンスの際に、本専攻（博士後期課程）の周知を行うほか、在学生向けの説明会を開催し、本専攻（博士後期課程）の教育研究内容について理解を深める場を設ける予定である。社会人学生の確保に関しては、社会人学生の受け入れを促進するため、昼夜開講制度や長期履修学生制度を設けるとともに、入学試験においても社会人選抜を実施する。各人の事情に合わせて大学院で学べるよう、就業しながら通いやすい環境を整えていく。実際に、令和4年度に開設したサステイナブルシステム科学研究科（修士課程）において、オンデマンド授業を活用して多くの社会人学生が夜間・土曜日に授業を受講し研究指導を受けている。本学大学院（博士後期課程）においても、引き続き柔軟に社会人学生の需要に対応する予定である。

以上に加えて、積極的な情報発信に努める。本学大学院（博士後期課程）の広報ツールとして、大学案内に本研究科の特色やカリキュラムの内容を記載し、広く周知を行い、募

集要項と共に本学協力企業及び商工会議所会員企業等に配布する。また、本学公式ホームページにおいて、教員の研究内容や制度内容について分かり易く示して情報発信を行う。加えて、大学院の受験情報誌をはじめ、学会等を通じての周知・広報も実施する予定である。これらの取り組みにより、学生、社会人、地元の企業等の本学大学院（博士後期課程）への入学への関心度が高まり、入学者の確保につながっていくと想定している。

## 第2 人材需要の動向等社会の要請

### 1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学大学院サステイナブルシステム科学研究科が養成を目指す人材は、本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探求すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者である。また、外国人留学生のための特別日本語学習講座の設定や「平日夜間・休日昼間の授業の開講」や「社会人特別選抜等の入学試験の導入」といった社会人学生に対する学修環境を充実させることで、幅広い層を対象とした教育研究を推進する。

生産システム科学専攻では、持続的な社会の創造に対する意識、およびサプライチェーンの不確実性などの社会情勢の変化に対する関心を常に持ちながら「ものづくり」による社会貢献を達成することが重要である。その下で「ものづくり」についての課題を見出し、専門的および学際的学識を修得して持続可能な社会に貢献する製品やシステムの研究、開発、生産プロセスの構築など、多様な方面で活躍できる人材育成をめざしている。

### 2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

現在、半導体産業やEV開発などの分野で日本の技術が世界における進歩と比べて立ち遅れの傾向がある。また、諸外国に比べて大学院博士後期課程への進学者が圧倒的に少ない。

この点については、「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」教育未来創造会議第一次提言（令和4年5月10日）（資料22赤枠参照）でも指摘されている。ものづくり系の諸課題の解決には、工学系の高度専門人、教育研究者の育成が急務である。また、石川県は伝統的に繊維、機械、電子工業などの、ものづくり産業がさかんであり、高度技術を有する人材の需要が極めて強い。

そこで、本学大学院（博士後期課程）を設置するにあたり、地域からの期待や本学大学院（博士後期課程）修了生の採用意向状況等を把握するため、石川県内のものづくり関連企業（生産用機械器具製造業・電気機械器具製造業・情報通信業等）等78団体に対して、本学大学院（博士後期課程）設置の趣旨や概要の説明資料を添付したうえで、本学大学院（博士後期課程）設置に関するウェブアンケート調査を実施し、9の団体（回答率：12%）

から以下の回答を得た。アンケート調査の結果より、本学に大学院（博士後期課程）を設置することは、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると考えられた。

**【公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート実施概要】**

＜採用意向調査（生産システム科学専攻）＞ （資料 17）

調査対象：石川県内ものづくり関連企業（78 団体）

実施時期：令和 4 年 12 月

回答状況（回答率）：9 団体（12%）

**石川県内ものづくり関連企業等に対するアンケート調査（資料 17）の結果の分析**

本学大学院（博士後期課程）生産システム科学専攻修了生の採用の意向を尋ねたところ（問 7）、「採用したい」との回答が 2 団体、「採用を検討したい」との回答が 6 団体からあった。「採用したい、採用を検討したい」と回答した団体に対して、採用を検討する場合、毎年何人程度の採用が想定されるかを尋ねた設問（問 8）の回答から、採用想定人数を算出した結果、生産システム科学専攻修了生の採用想定人数は 2 人という数値であった。

また、本学大学院（博士後期課程）の必要性を尋ねた設問（問 6）では、「社会的必要性が高い」が 5 団体（56%）、「一応社会的必要性を感じる」2 団体（22%）と合わせて 7 団体（78%）が必要だと回答した。このことから、回答した団体の多くが生産システム科学専攻で養成をめざす人材に関しても必要性を感じていることが分かり、本学大学院（博士後期課程）生産システム科学専攻修了生に対する採用ニーズも十分見込むことができると確認できた。

（資料 17 抜粋）

	生産システム科学専攻
採用したい 採用を検討したい	8 団体
採用想定人数/年	2 人
<b>入学定員</b>	<b>2 人</b>

次に、本学が養成をめざす外国人留学生の大学院生の社会的ニーズに関して述べる。

外国人留学生に関する卒業後の進路について独立行政法人日本学生支援機構「2020（令和 2）年度 外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」（令和 4 年 4 月）（資料 23 青枠参照）の「（内訳 1）専攻区分別進路状況調査結果」では、専攻区分で見ると博士前

期課程修了者のうち、日本国内に進学した者は、理学系が 26.6%、工学系が 17.5%、また就職した者は理学系が 21.6%、工学系が 32.3%であった。

このため、「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」教育未来創造会議第一次提言（令和 4 年 5 月 10 日）（資料 22 青枠参照）では、高度外国人の育成・活躍推進について、「大学等における外国人留学生の就職・起業支援の強化を図る。アジア諸国の高度人材地域の地方公共団体・大学・経済団体・地場企業等から構成されたコンソーシアムを形成するなど、外国人留学生の就職・定着・起業の支援に向けた連携を強化する」等、具体的な方策を挙げている。本学でも地元企業からの大学院向け奨学金支援制度があり、それを利用した就職機会の提供支援が存在する。

## 資料目次

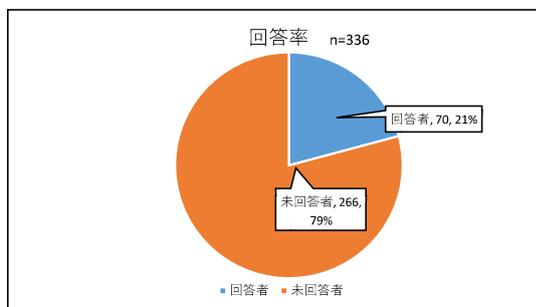
公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート【本学学部生対象】	2
資料1：進学意向調査結果（本学在学部生）の概要	2
資料2：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文	6
資料3：調査票	7
資料4：大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット	11
公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート【本学大学院生（修士課程）対象】	14
資料5：進学意向調査結果（本学在大学院生）の概要	14
資料6：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文	18
資料7：調査票	19
資料8：大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット	23
公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート【社会人共通対象】	26
資料9：入学意向調査結果（県内企業、商社等）の概要	26
資料10：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文	32
資料11：調査票	34
資料12：大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット	39
公立小松大学大学院（博士後期課程）設置構想に係るアンケート（海外協定校等）	42
資料13：入学意向調査結果（海外協定校及び共同研究関連校等）の概要	42
資料14：調査票	43
資料15：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文	44
資料16：調査回答	45
公立小松大学大学院（博士後期課程）設置構想に係るアンケート（生産システム科学専攻）	46
資料17：採用意向調査結果（事業所）の概要	46
資料18：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文	50
資料19：調査票	53
資料20：大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット	58
参考資料	
参考1：石川県内に類似する分野を持つ大学院（博士後期課程）入学状況	61
資料21：「文部科学省令和3年度学校基本調査（確定値）の公表について」	62
資料22：「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」 教育未来創造会議第一次提言	64
資料23：「2020（令和2年度 外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果）」 独立行政法人日本学生支援機構	75

公立小松大学大学院(博士後期課程) 設置に関するアンケート【本学学部生対象】  
【進学意向調査結果(本学在学部生)の概要】

1 調査概要

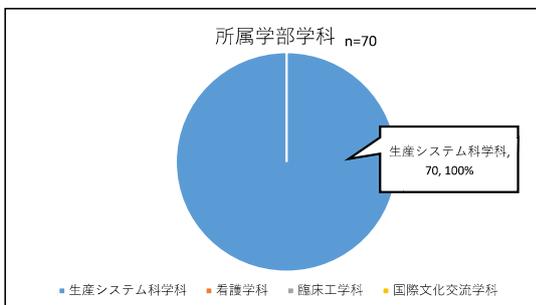
- (1) 調査主体  
公立大学法人公立小松大学
- (2) 調査目的  
令和6年4月に予定している「公立小松大学大学院(博士後期課程)」の設置に向けて、公立小松大学の在学学生を対象に、本学大学院(博士後期課程)生産システム科学専攻への進学意向を把握することを目的とする。
- (3) 主要調査項目  
○公立小松大学大学院(博士後期課程)への現在の進学希望  
○公立小松大学大学院(博士後期課程)への興味・関心理由  
○公立小松大学大学院(博士後期課程)への将来的な進学希望
- (4) 調査対象  
公立小松大学の学部生(生産システム科学科 1~4年生、336人)
- (5) 調査実施時期  
令和4年11月
- (6) 回答状況  
70人(回答率:21%)

アンケート対象(全学生)	336
回答者	70
未回答者	266



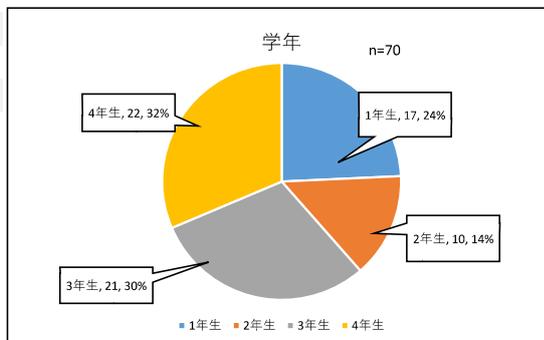
1. 所属学部学科を選択してください。

生産システム科学科	70
看護学科	
臨床工学科	
国際文化交流学科	
【内訳】	
生産(1年17人、2年10人、3年21人、4年22人)	



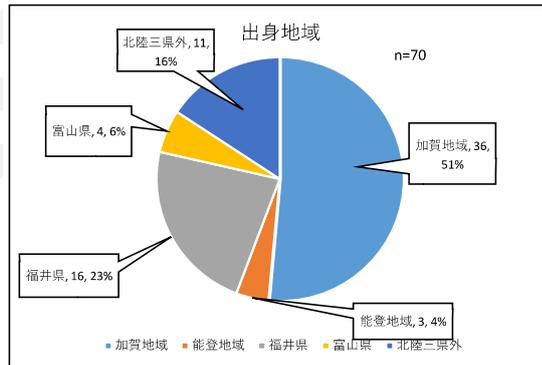
2. 学年を選択してください。

1年生	17
2年生	10
3年生	21
4年生	22
【内訳】	
生産(1年17人、2年10人、3年21人、4年22人)	



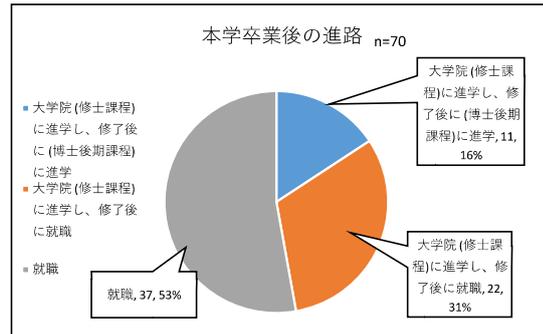
3. 出身地域を選択してください。

加賀地域	36
能登地域	3
福井県	16
富山県	4
北陸三県外	11
【内訳】	



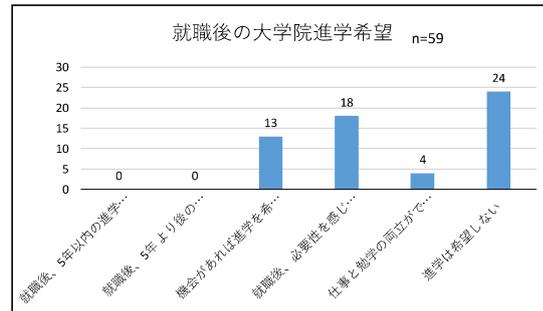
4. 本学卒業後どのような進路を希望しますか。次の中から1つだけ選んでください。

大学院(修士課程)に進学し、修了後に(博士後期課程)に進学	11
大学院(修士課程)に進学し、修了後に就職	22
就職	37
【内訳】	
大学院進学	
生産(1年3人、2年2人、3年4人、4年2人)	11
修了後就職 生産(1年6人、2年4人、3年4人、4年8人)	22
就職 生産(1年8人、2年4人、3年13人、4年12人)	37



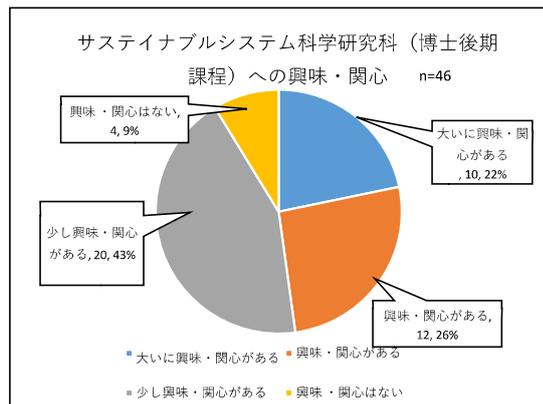
5. 就職をした後の大学院(博士後期課程)進学希望についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。

就職後、5年以内の進学を希望する	0
就職後、5年より後の進学を希望する	0
機会があれば進学を希望する	13
就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する	18
仕事と勉学の両立ができれば進学を希望する	4
進学は希望しない	24
【内訳】	
5年以内の進学	
生産 0	0
機会があれば進学	
生産(1年1人、2年5人、3年4人、4年3人)	13
必要性	
生産(1年7人、2年2人、3年4人、4年5人)	18
両立	
生産(1年1人、3年3人)	4



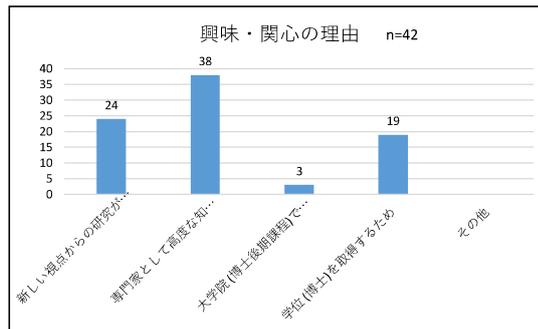
6. 令和6年(2024年)4月に設置予定の公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科(博士後期課程)についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

大いに興味・関心がある☑	10
興味・関心がある	12
少し興味・関心がある	20
興味・関心はない	4
【内訳】	
大いに	
生産(1年2人、2年2人、3年3人、4年3人)	10
興味	
生産(1年4人、2年2人、3年3人、4年3人)	12
少し	
生産(1年5人、2年4人、3年9人、4年2人)	20
なし	
生産(1年1人、2年1人、3年0人、4年2人)	4



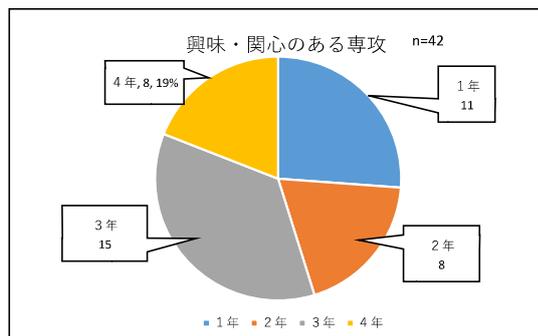
7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。

新しい視点からの研究ができそうだから☑	24
専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	38
大学院(博士後期課程)で研究したいテーマがあるから	3
学位(博士)を取得するため	19
その他	



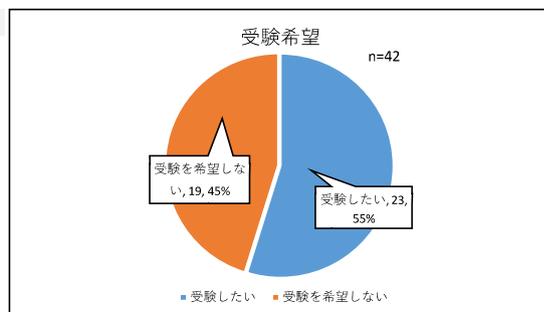
8. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。(生産システム科学専攻)

1年	11
2年	8
3年	15
4年	8
生産(1年11人、2年8人、3年15人、4年8人)	42



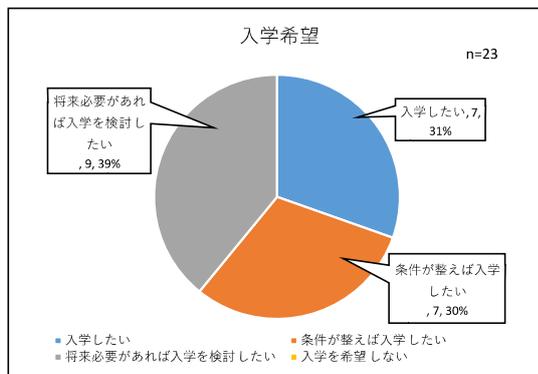
9. 本学に大学院(博士後期課程)が設置された場合、「生産システム科学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

受験したい	23
受験を希望しない	19
受験したい 生産(1年5人、2年4人、3年9人、4年5人)	



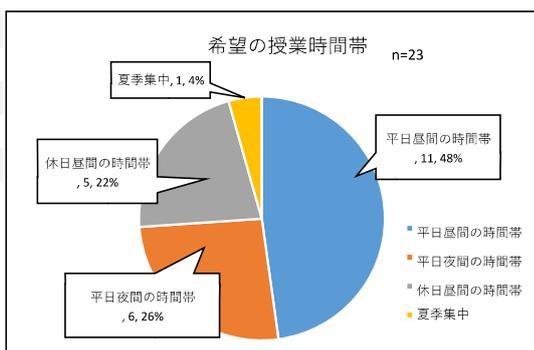
10. 生産システム科学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

入学したい	7
条件が整えば入学したい	7
将来必要があれば入学を検討したい☑	9
入学を希望しない	0
入学したい 生産(1年1人、2年3人、3年3人、4年0人)	7
条件整えば 生産(1年2人、2年1人、3年3人、4年1人)	7
将来必要 生産(1年2人、3年3人、4年4人)	9



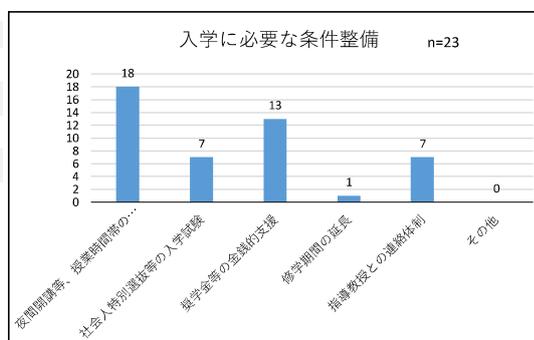
11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。

平日昼間の時間帯☑	11
平日夜間の時間帯☑	6
休日昼間の時間帯☑	5
夏季集中	1
その他	0
平日昼間 (1年3人、2年1人、3年6人、4年1人)	11
平日夜間 (1年1人、2年2人、3年2人、4年1人)	6
休日昼間 (1年1人、2年1人、3年1人、4年2人)	5
夏季手中 (1年、2年、3年、4年1人)	1



12. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫	18
社会人特別選抜等の入学試験	7
奨学金等の金銭的支援	13
修学期間の延長	1
指導教授との連絡体制	7
その他	0
夜間開講 (1年4人、2年4人、3年6人、4年4人)	18
社会人選抜 (1年2人、2年1人、3年4人、4年0人)	7
奨学金 (1年2人、2年3人、3年4人、4年4人)	13
修学期間 (1年0人、2年0人、3年1人、4年0人)	1
指導教授 (1年2人、2年0人、3年3人、4年2人)	7



13. 「公立小松大学大学院」について、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

1. 大学院以前に、小松大学自体に魅力的な学科にしてい若しくは魅力的な学科を作っていく事、多くの学びを得られる環境整備をしていく事の方を優先していべきだと思います。
2. 設置してよいと思う
3. 今、私は修士に進むかも未定だが、博士課程ができれば、修士に進む人数も増えると思う。また、学内で大学院に進学するメリットや学べる内容を紹介する機会を増やすべきだと思った。



# (学部生用) 公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科 (博士後期課程) 設置に関するアンケート調査

在学生を対象に、2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科 (博士後期課程) に関し、以下のアンケートを実施します。ご協力をお願いします。回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。アンケートに関するお問い合わせは大学院担当 山崎、神田までお願いします。



\* 必須

あなたの所属をお尋ねします。

1. 所属学部学科を選んでください。\*

- 生産システム科学部 生産システム科学科
- 保健医療学部 看護学科
- 保健医療学部 臨床工学科
- 国際文化交流学部 国際文化交流学科

2. 学年を選んでください\*

- 1年生
- 2年生
- 3年生
- 4年生

3. 出身地域を選んでください。\*

- 加賀地域 (小松市、加賀市、能美市、川北町、白山市、野々市市、金沢市、かほく市、内灘町、津幡町)
- 能登地域 (羽咋市、七尾市、宝達志水町、中能登町、志賀町、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町)
- 福井県
- 富山県
- 北陸3県以外

次へ

\* 必須

## 卒業後の進路希望および設置計画中の公立小松大学大学院 (博士後期課程) についてお尋ねします。

以下のサステイナブルシステム科学研究科 (博士後期課程) 設置構想リーフレットをご覧ください。  
URL : [https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate\\_school\\_plan.pdf](https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate_school_plan.pdf)

4. 本学卒業後どのような進路を希望しますか。次の中から1つ選んでください。 \*

- 大学院 (修士課程) に進学し、修了後に (博士後期課程) に進学
- 大学院 (修士課程) に進学し、修了後に就職
- 就職

5. 就職をした後の大学院 (博士後期課程) 進学希望についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。 \*

- 就職後、5年以内の進学を希望する
- 就職後、5年より後の進学を希望する
- 機会があれば進学を希望する
- 就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する
- 仕事と勉学の両立ができれば進学を希望する
- 進学は希望しない

6. 令和6年 (2024年) 4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科 (博士後期課程) についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。 \*

- 大いに興味・関心がある
- 興味・関心がある
- 少し興味・関心がある
- 興味・関心はない

7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。\*



2個のオプションを選択してください。

- 新しい視点からの研究ができそうだから
- 専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから
- 大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから
- 学位（博士）を取得するため
- その他

8. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。\*

- 生産システム科学専攻
- ヘルスケアシステム科学専攻
- グローカル文化化学専攻

9. 本学に大学院（博士後期課程）が設置された場合、「生産システム科学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 受験したい
- 受験を希望しない

10. 生産システム科学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 入学したい
- 条件が整えば入学したい
- 将来必要があれば入学を検討したい
- 入学を希望しない

11. 「入学したい」「条件を整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。\*

平日昼間の時間帯

平日夜間の時間帯

休日昼間の時間帯

夏季集中

その他

12. 「入学したい」「条件を整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。\*

2個のオプションを選択してください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫

社会人特別選抜等の入学試験

奨学金等の金銭的支援

修学期間の延長

指導教授との連絡体制

その他

13. 公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置計画について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください

回答を入力してください

戻る

送信

**（仮称）公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科（博士後期課程）**

・生産システム科学専攻 ・ヘルスケアシステム科学専攻 ・グローバル文化化学専攻

令和6年（2024年）4月設置予定

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

**概要**

設置年月：令和6年（2024年）4月予定

設置場所：石川県小松市四丁町ヌ1番地3（本部）

名称：サステナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻（博士後期課程）  
ヘルスケアシステム科学専攻（博士後期課程） グローバル文化化学専攻（博士後期課程）

修業年限：3年 入学時期：4月

定員：生産システム科学専攻 2名、ヘルスケアシステム科学専攻 1名、グローバル文化化学専攻 1名

学位：博士（工学）、博士（保健学）、博士（国際文化学）

**設置の理念**

本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探求すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者の育成を目指し、教育研究を推進する。

**養成する人材像**

「課題発見解決能力、社会実装力を備えた次世代人材」、「地域産業の高度化、地域発イノベーション等を担う高度人材」、「未来を支える教育者、研究者、組織指導者」、「『総合知』に立脚し、高度な専門能力を備えた人材」などの人材を育成し、「地域・国際社会へのサステナビリティへの貢献」をめざす。

**教育研究の特色**

①養成する人材像 ②開講予定科目 ③想定される修了後の進路

**・生産システム科学専攻〔学位：博士（工学）〕**

①持続的な社会の創造に対する意識および、サプライチェーンの不確実性などの社会情勢の変化に対する関心を常に持ちながら「ものづくり」による社会貢献を達成することが重要である。その下で「ものづくり」についての課題を見出し、専門的および学際的学識を修得して持続可能な社会に貢献する製品やシステムの研究、開発、生産プロセスの構築など、多様な方面で活躍できる人材育成をめざす。

②「環境熱流体解析学特論」、「先端製造テクノロジー特論」、「最適構造制御特論」、「先進IoT・AI特論」、「システム情報科学特論」

③製造業、エネルギー・材料関連産業、建設業、自動車・交通関連産業、高等教育研究機関、企業等研究所、地方公共団体・行政機関、研究職、設計開発職、生産管理職、大学教員、行政専門職など。



「トンネル火災実証実験室」

**・ヘルスケアシステム科学専攻〔学位：博士（保健学）〕**

①持続的に発展できるコミュニティヘルスケアを構築するために、健康と福祉に関する知識や研究能力を活用しかつ他分野の専門家とも積極的に協働していくことで、コミュニティヘルスケアに関する現存の課題の解決策を提案している高度専門職業人、研究者、および大学教員の育成をめざす。

②「コミュニティヘルスケア概論A」、「コミュニティヘルスケア概論B」、「コミュニティヘルスケアとユビキタス医工学特論」、「医療と多文化共生特論」

③保健福祉機関、病院、介護・リハビリテーション施設、医療機器・介護支援ハード&ソフトウェアメーカー、国際保健医療機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、看護師、臨床工学技士、システム開発者、メディカル・リプレゼンタティブ（MR）、大学教員、行政専門職、研究者、医療施設の経営者など。



「人工心肺装置」

・グローバル文化学専攻〔学位：博士（国際文化学）〕

- ①南加賀および北陸に軸足を置き、アジアを中心とした国際文化研究と連動させ、専門知識の深化と普遍的な思考、さらには分野を超えた専門的なスキルを有する人材を社会に送り出す。同時に、地域・国際課題を発見し、それを横断的・複眼的な視座から解決を試み、エシカルな行動様式を意識しながら、地域を活性化できる人材育成をめざす。
- ②「南加賀・北陸文化資源特論」、「国際文化学特論 A」、「国際文化学特論 B」、「グローバル文化学特論 A」、「グローバル文化学特論 B」
- ③情報産業、流通・製造業、総合商社、観光・旅行業、航空・交通業界、金融機関、マスコミ・出版関係企業、文化資源関係機関、国際機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、国内外ビジネスパーソン、国際機関職員、起業家、ツアープランナー、通訳、大学教員、行政機関の専門職など。



「ティカル遺跡(グアテマラ)」

●社会人に対する配慮

本研究科博士後期課程では、仕事に従事しながら学修を望む方への学修機会の提供を目的とし、社会人学生を積極的に受け入れています。長期履修学生制度及び昼夜開講制度を設け、在職のまま学びやすい環境を整えています。

- ・修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができ、在職のまま学びやすくなるよう配慮します。(長期履修学生制度)
- ・大学院設置基準第14条に規定する教育方法の特例に基づき、夜間等に履修できるように配慮します。(昼夜開講制)

●学生納付金（予定）

入学料：(市内者) 282,000 円、(その他) 423,000 円 授業料：(年間) 585,800 円  
 ※授業料減免・奨学金制度もあり

●競合する研究科の名称等

本研究科と類似する近隣大学院博士後期課程の納付金

生産システム科学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	自然科学研究科	自然システム学専攻	282,000 円	535,800 円
金沢工業大学大学院	工学研究科	機械工学専攻 情報工学専攻 電気電子工学専攻	250,000 円	1,011,000 円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	282,000 円	535,800 円

ヘルスケアシステム科学専攻

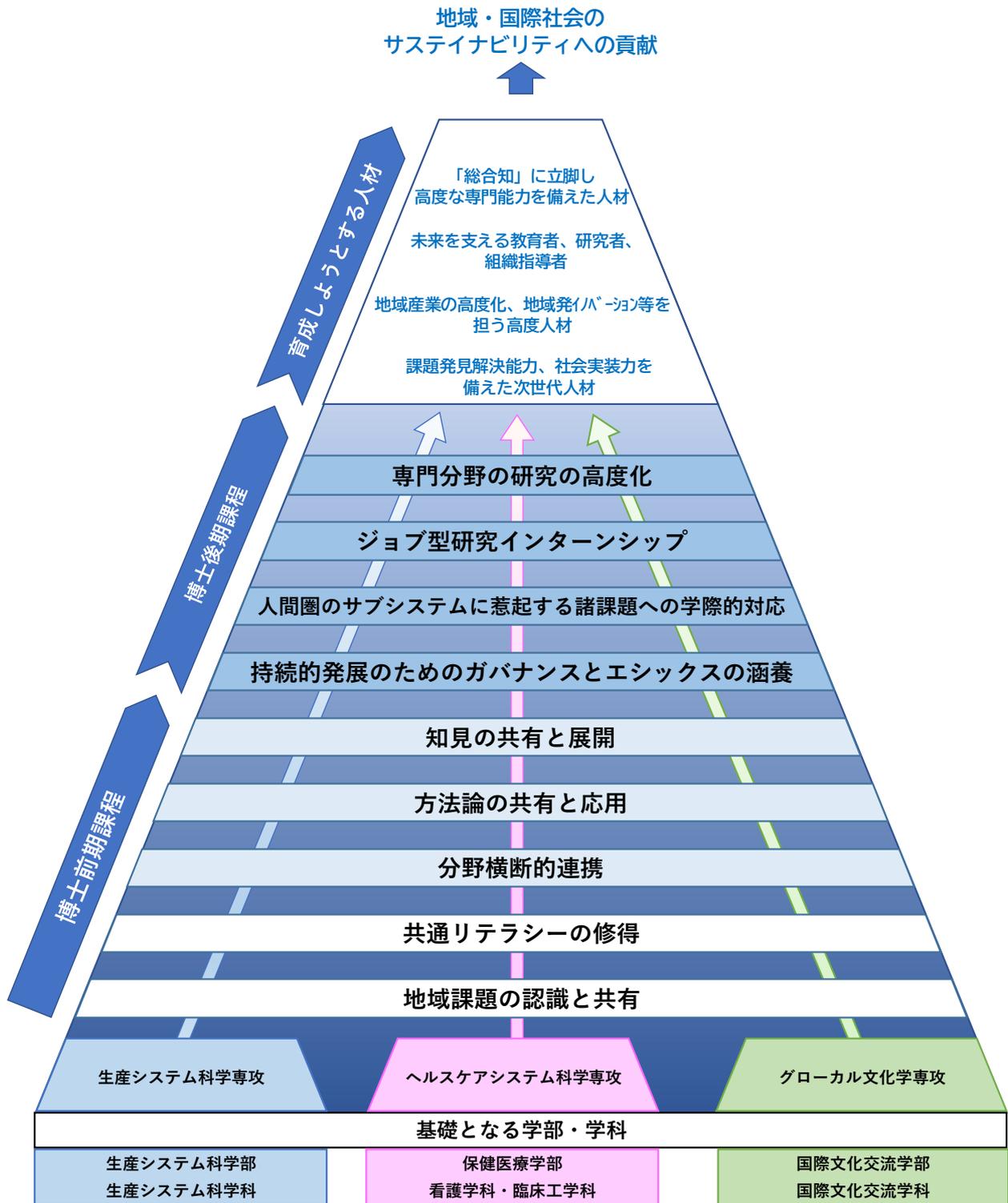
大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	医薬保健学総合研究科	保健学専攻 医学専攻	282,000 円	535,800 円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	(県内) 282,000 円 (県外) 423,000 円	535,800 円

グローバル文化学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	人間社会環境研究科	人間社会環境学専攻	282,000 円	535,800 円

●設置場所（アクセス）

- ・栗津キャンパス 石川県小松市四丁町又1番地3 (JR 栗津駅より徒歩で約12分)
- ・末広キャンパス 石川県小松市向本折町へ14番地1 (JR 小松駅より徒歩で約23分)
- ・中央キャンパス 石川県小松市土居原町10-10 (JR 小松駅より徒歩で約1分)



サステイナブルシステム科学研究科博士課程における教育課程編成の考え方

公立小松大学大学院(博士後期課程) 設置に関するアンケート【本学大学院生対象】  
【進学意向調査結果（本学在大学院生）の概要】

## 1 調査概要

## (1) 調査主体

公立大学法人公立小松大学

## (2) 調査目的

令和6年4月に予定している「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、公立小松大学大学院（修士課程）生産システム科学専攻の大学院生を対象に、本学大学院（博士後期課程）への進学意向を把握することを目的とする。

## (3) 主要調査項目

- 公立小松大学大学院（博士後期課程）への現在の進学希望
- 公立小松大学大学院（博士後期課程）への興味・関心理由
- 公立小松大学大学院（博士後期課程）への将来的な進学希望

## (4) 調査対象

公立小松大学の大学院生（生産システム科学専攻 1年生16人）

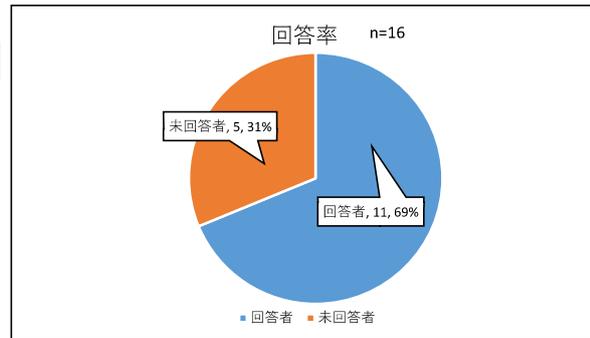
## (5) 調査実施時期

令和4年11月

## (6) 回答状況

11人（回答率：69%）

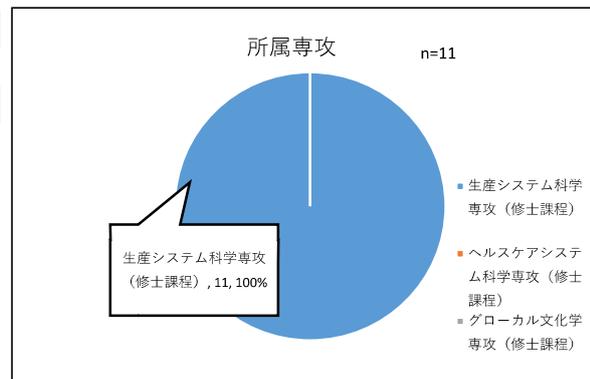
アンケート対象（全学生）	16
回答者	11
未回答者	5



## 1. 所属専攻名を選んでください。

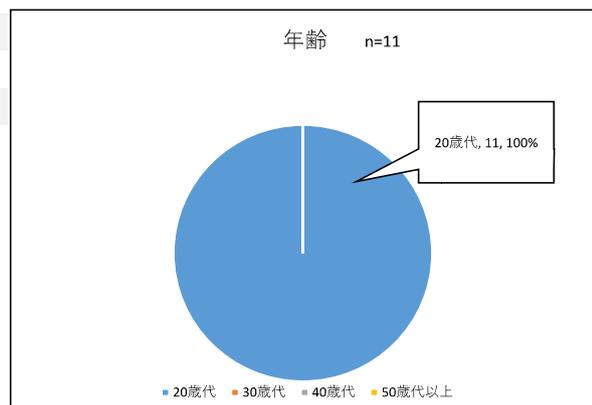
生産システム科学専攻（修士課程）	11
ヘルスケアシステム科学専攻（修士課程）	0
グローバル文化科学専攻（修士課程）	0

【内訳】



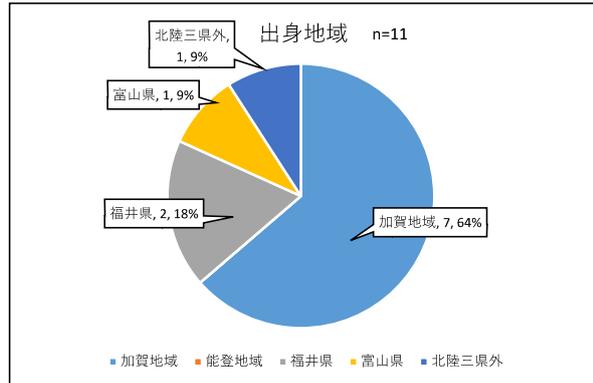
## 2. あなたの年齢についてお尋ねします。次の中から1つを選んでください。

20歳代	11
30歳代	0
40歳代	0
50歳代以上	0



3. 出身地域を選択してください。

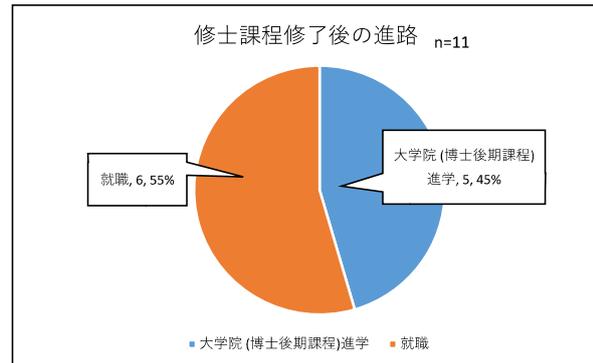
加賀地域	7
能登地域	0
福井県	2
富山県	1
北陸三県外	1



4. 本学大学院サステナブルシステム科学研究科 (修士課程)修了後どのような進路を希望しますか。

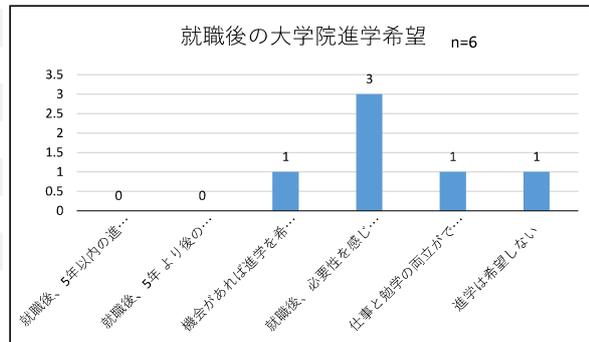
次の中から 1つ選んでください。

大学院 (博士後期課程)進学	5
就職	6



5. 就職をした後の大学院 (博士後期課程)進学希望についてお尋ねします。次の中から 1つ選☑てください。

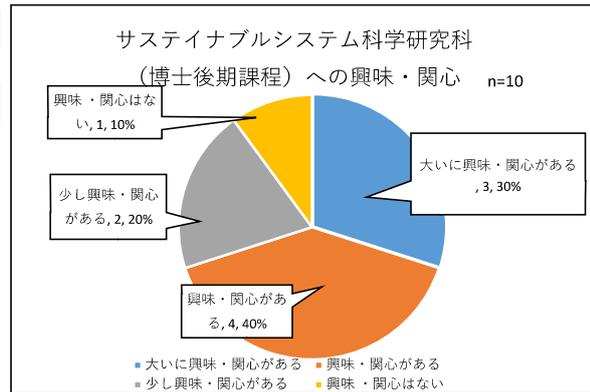
就職後、5年以内の進学を希望する	0
就職後、5年より後の進学を希望する	0
機会があれば進学を希望する	1
就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する	3
仕事と勉学の両立ができれば進学を希望する	1
進学は希望しない	1



6. 令和6年(2024年)4月に設置予定の公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科(博士後期課程)についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

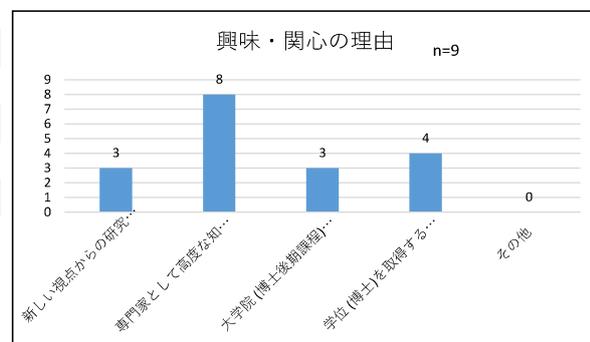
大いに興味・関心がある☑	3
興味・関心がある	4
少し興味・関心がある	2
興味・関心はない	1

無回答 1名



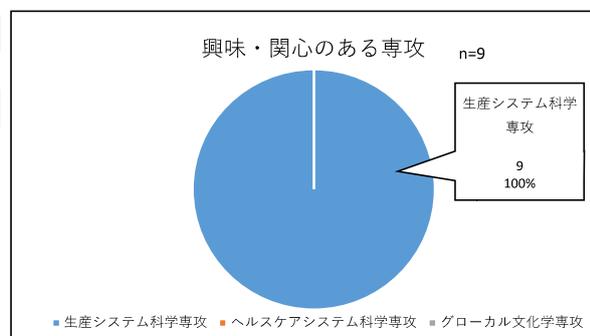
7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。

新しい視点からの研究ができそうだから☑	3
専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	8
大学院(博士後期課程)で研究したいテーマがあるから	3
学位(博士)を取得するため	4
その他	0



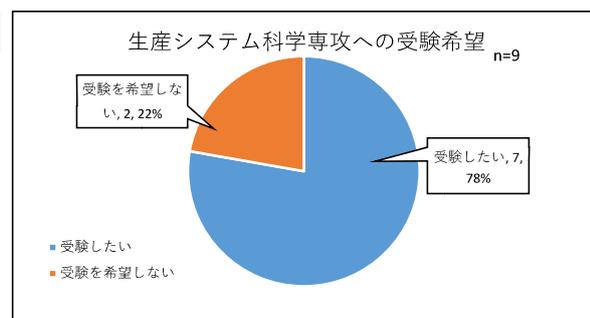
8. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。

生産システム科学専攻☑	9
ヘルスケアシステム科学専攻	
グローバル文化化学専攻	



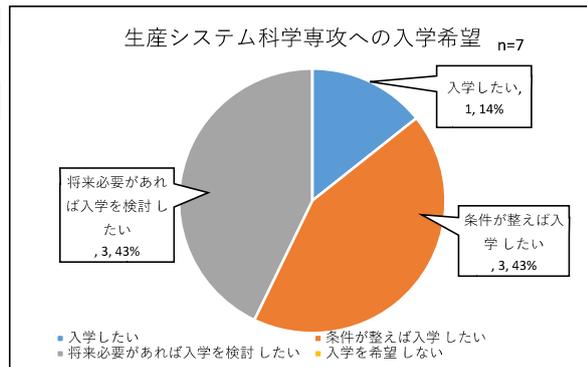
9. 本学に大学院(博士後期課程)が設置された場合、「生産システム科学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

受験したい	7
受験を希望しない	2



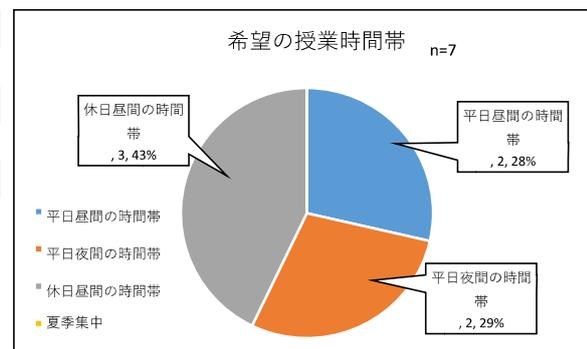
10. 生産システム科学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

入学したい	1
条件が整えば入学したい☑	3
将来必要があれば入学を検討したい☑	3
入学を希望しない	0



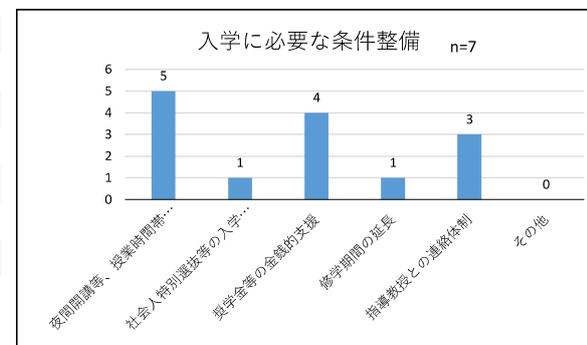
11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。

平日昼間の時間帯☑	2
平日夜間の時間帯☑	2
休日昼間の時間帯☑	3
夏季集中	0
その他	0



12. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫	5
社会人特別選抜等の入学試験	1
奨学金等の金銭的支援	4
修学期間の延長	1
指導教授との連絡体制	3
その他	0



13. 「公立小松大学大学院」について、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

## 大学院生用ポータル依頼文

件名：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に係る在学生向けアンケート調査

内容：

大学院生 各位

2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院（博士後期課程）に関するアンケート調査を実施します。以下のURLからアンケートに答えてください。

- ・このアンケートは無記名式で、結果を調査目的以外に使用することはありません。
- ・回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。
- ・本アンケートの締切は令和4年11月30日（水）です。

なお、アンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

URL：<https://forms.office.com/r/qaLTia6Urp>

お問い合わせ先：学生課 学務・大学院担当 山崎、神田 TEL0761-41-6700

件名 <span style="color: red;">✔</span>	公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に係る在学生向けアンケート調査 <input type="checkbox"/> 重要（掲示／メールに重要マークが設定されます。）
差出人 <span style="color: red;">✔</span>	大学院担当 <input type="checkbox"/> メール返信を許可する <input type="text" value="返信先メールアドレスを入力"/> ※配信したメールにユーザが返信する場合、入力したアドレスが返信先となります。
	<p>掲示／メール共通エリア</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"> <span style="font-weight: bold;">B</span> <span style="font-style: italic;">I</span> <span style="text-decoration: underline;">U</span> <span style="font-size: 0.8em;">S</span> <span style="font-size: 0.8em;">x<sub>2</sub></span> <span style="font-size: 0.8em;">x<sup>2</sup></span> <span style="font-size: 0.8em;">T<sub>I</sub></span> <span style="font-size: 0.8em;">🔥</span> <span style="font-size: 0.8em;">📄</span> <span style="font-size: 0.8em;">📑</span> <span style="font-size: 0.8em;">🔗</span> <span style="font-size: 0.8em;">🗑️</span> <span style="font-size: 0.8em;">✍️</span> <span style="font-size: 0.8em;">🔄</span> </p> <p>大学院生 各位</p> <p>2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院（博士後期課程）に関するアンケート調査を実施します。以下のURLからアンケートに答えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このアンケートは無記名式で、結果を調査目的以外に使用することはありません。</li> <li>・回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。</li> <li>・本アンケートの締切は令和4年11月30日（水）です。</li> </ul> <p>なお、アンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。</p> <p>URL：<a href="https://forms.office.com/r/qaLTia6Urp">https://forms.office.com/r/qaLTia6Urp</a></p> <p>お問い合わせ先：事務局 山崎、神田 TEL0761-41-6700</p> </div>

（ポータルサイトによる依頼文配信画面）

## (大学院生用) 公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科 (博士後期課程) 設置に関するアンケート調査

在学生を対象に、2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科 (博士後期課程) に関し、以下のアンケートを実施します。ご協力をお願いします。回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。アンケートに関するお問い合わせは大学院担当 山崎、神田までお願いします。



\* 必須

あなたの所属をお尋ねします。

1. 所属専攻名を選んでください。\*

- 生産システム科学専攻 (修士課程)
- ヘルスケアシステム科学専攻 (修士課程)
- グローカル文化学専攻 (修士課程)

2. あなたの年齢についてお尋ねします。次の中から 1 つを選んでください。\*

- 20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳以上

3. 出身地域を選んでください。\*

- 加賀地域 (小松市、加賀市、能美市、川北町、白山市、野々市市、金沢市、かほく市、内灘町、津幡町)
- 能登地域 (羽咋市、七尾市、宝達志水町、中能登町、志賀町、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町)
- 福井県
- 富山県
- 北陸3県以外

次へ

\* 必須

修士課程修了後の進路希望および設置計画中の公立小松大学大学院（博士後期課程）についてお尋ねします。

以下のサステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置構想リーフレットをご覧ください。  
URL : [https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate\\_school\\_plan.pdf](https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate_school_plan.pdf)

4. 本学大学院サステイナブルシステム科学研究科（修士課程）修了後どのような進路を希望しますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 大学院（博士後期課程）進学
- 就職

5. 就職をした後の大学院（博士後期課程）進学希望についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。\*

- 就職後、5年以内の進学を希望する
- 就職後、5年以後の進学を希望する
- 機会があれば進学を希望する
- 就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する
- 仕事と勉学の両立ができれば進学を希望する
- 進学は希望しない

6. 令和6年（2024年）4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 大いに興味・関心がある
- 興味・関心がある
- 少し興味・関心がある
- 興味・関心はない

7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。\*



2個のオプションを選択してください。

- 新しい視点からの研究ができそうだから
- 専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから
- 大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから
- 学位（博士）を取得するため
- その他

8. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。\*

- 生産システム科学専攻
- ヘルスケアシステム科学専攻
- グローカル文化科学専攻

9. 本学に大学院（博士後期課程）が設置された場合、「生産システム科学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 受験したい
- 受験を希望しない

10. 生産システム科学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 入学したい
- 条件が整えば入学したい
- 将来必要があれば入学を検討したい
- 入学を希望しない

11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。\* 

平日昼間の時間帯

平日夜間の時間帯

休日昼間の時間帯

夏季集中

その他

12. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。\*

2個のオプションを選択してください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫

社会人特別選抜等の入学試験

奨学金等の金銭的支援

修学期間の延長

指導教授との連絡体制

その他

13. 公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置計画について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください

回答を入力してください

戻る

送信

（仮称）公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科（博士後期課程）

・生産システム科学専攻 ・ヘルスケアシステム科学専攻 ・グローバル文化化学専攻

令和6年（2024年）4月設置予定

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

## 概要

設置年月：令和6年（2024年）4月予定

設置場所：石川県小松市四丁町ヌ1番地3（本部）

名称：サステナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻（博士後期課程）  
ヘルスケアシステム科学専攻（博士後期課程） グローバル文化化学専攻（博士後期課程）

修業年限：3年 入学時期：4月

定員：生産システム科学専攻 2名、ヘルスケアシステム科学専攻 1名、グローバル文化化学専攻 1名

学位：博士（工学）、博士（保健学）、博士（国際文化学）

## 設置の理念

本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探索すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者の育成を目指し、教育研究を推進する。

## 養成する人材像

「課題発見解決能力、社会実装力を備えた次世代人材」、「地域産業の高度化、地域発イノベーション等を担う高度人材」、「未来を支える教育者、研究者、組織指導者」、「『総合知』に立脚し、高度な専門能力を備えた人材」などの人材を育成し、「地域・国際社会へのサステナビリティへの貢献」をめざす。

## 教育研究の特色

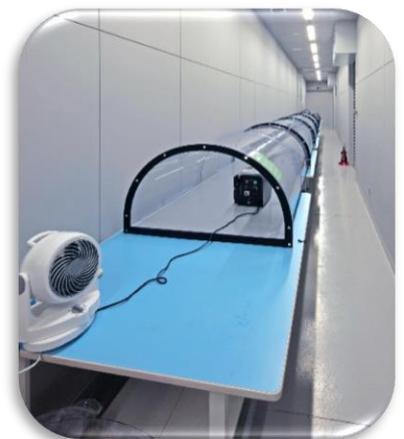
①養成する人材像 ②開講予定科目 ③想定される修了後の進路

### ・生産システム科学専攻〔学位：博士（工学）〕

①持続的な社会の創造に対する意識および、サプライチェーンの不確実性などの社会情勢の変化に対する関心を常に持ちながら「ものづくり」による社会貢献を達成することが重要である。その下で「ものづくり」についての課題を見出し、専門的および学際的学識を修得して持続可能な社会に貢献する製品やシステムの研究、開発、生産プロセスの構築など、多様な方面で活躍できる人材育成をめざす。

②「環境熱流体解析学特論」、「先端製造テクノロジー特論」、「最適構造制御特論」、「先進IoT・AI特論」、「システム情報科学特論」

③製造業、エネルギー・材料関連産業、建設業、自動車・交通関連産業、高等教育研究機関、企業等研究所、地方公共団体・行政機関、研究職、設計開発職、生産管理職、大学教員、行政専門職など。



「トンネル火災実証実験室」

### ・ヘルスケアシステム科学専攻〔学位：博士（保健学）〕

①持続的に発展できるコミュニティヘルスケアを構築するために、健康と福祉に関する知識や研究能力を活用しかつ他分野の専門家とも積極的に協働していくことで、コミュニティヘルスケアに関する現存の課題の解決策を提案している高度専門職業人、研究者、および大学教員の育成をめざす。

②「コミュニティヘルスケア概論A」、「コミュニティヘルスケア概論B」、「コミュニティヘルスケアとユビキタス医工学特論」、「医療と多文化共生特論」

③保健福祉機関、病院、介護・リハビリテーション施設、医療機器・介護支援ハード&ソフトウェアメーカー、国際保健医療機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、看護師、臨床工学技士、システム開発者、メディカル・リプレゼンタティブ（MR）、大学教員、行政専門職、研究者、医療施設の経営者など。



「人工心肺装置」

・グローバル文化学専攻〔学位：博士（国際文化学）〕

- ①南加賀および北陸に軸足を置き、アジアを中心とした国際文化研究と連動させ、専門知識の深化と普遍的な思考、さらには分野を超えた専門的なスキルを有する人材を社会に送り出す。同時に、地域・国際課題を発見し、それを横断的・複眼的な視座から解決を試み、エシカルな行動様式を意識しながら、地域を活性化できる人材育成をめざす。
- ②「南加賀・北陸文化資源特論」、「国際文化学特論 A」、「国際文化学特論 B」、「グローバル文化学特論 A」、「グローバル文化学特論 B」
- ③情報産業、流通・製造業、総合商社、観光・旅行業、航空・交通業界、金融機関、マスコミ・出版関係企業、文化資源関係機関、国際機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、国内外ビジネスパーソン、国際機関職員、起業家、ツアープランナー、通訳、大学教員、行政機関の専門職など。



「ティカル遺跡(グアテマラ)」

●社会人に対する配慮

本研究科博士後期課程では、仕事に従事しながら学修を望む方への学修機会の提供を目的とし、社会人学生を積極的に受け入れています。長期履修学生制度及び昼夜開講制度を設け、在職のまま学びやすい環境を整えています。

- ・修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができ、在職のまま学びやすくなるよう配慮します。(長期履修学生制度)
- ・大学院設置基準第14条に規定する教育方法の特例に基づき、夜間等に履修できるように配慮します。(昼夜開講制)

●学生納付金（予定）

入学料：(市内者) 282,000 円、(その他) 423,000 円 授業料：(年間) 585,800 円  
 ※授業料減免・奨学金制度もあり

●競合する研究科の名称等

本研究科と類似する近隣大学院博士後期課程の納付金

生産システム科学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	自然科学研究科	自然システム学専攻	282,000 円	535,800 円
金沢工業大学大学院	工学研究科	機械工学専攻 情報工学専攻 電気電子工学専攻	250,000 円	1,011,000 円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	282,000 円	535,800 円

ヘルスケアシステム科学専攻

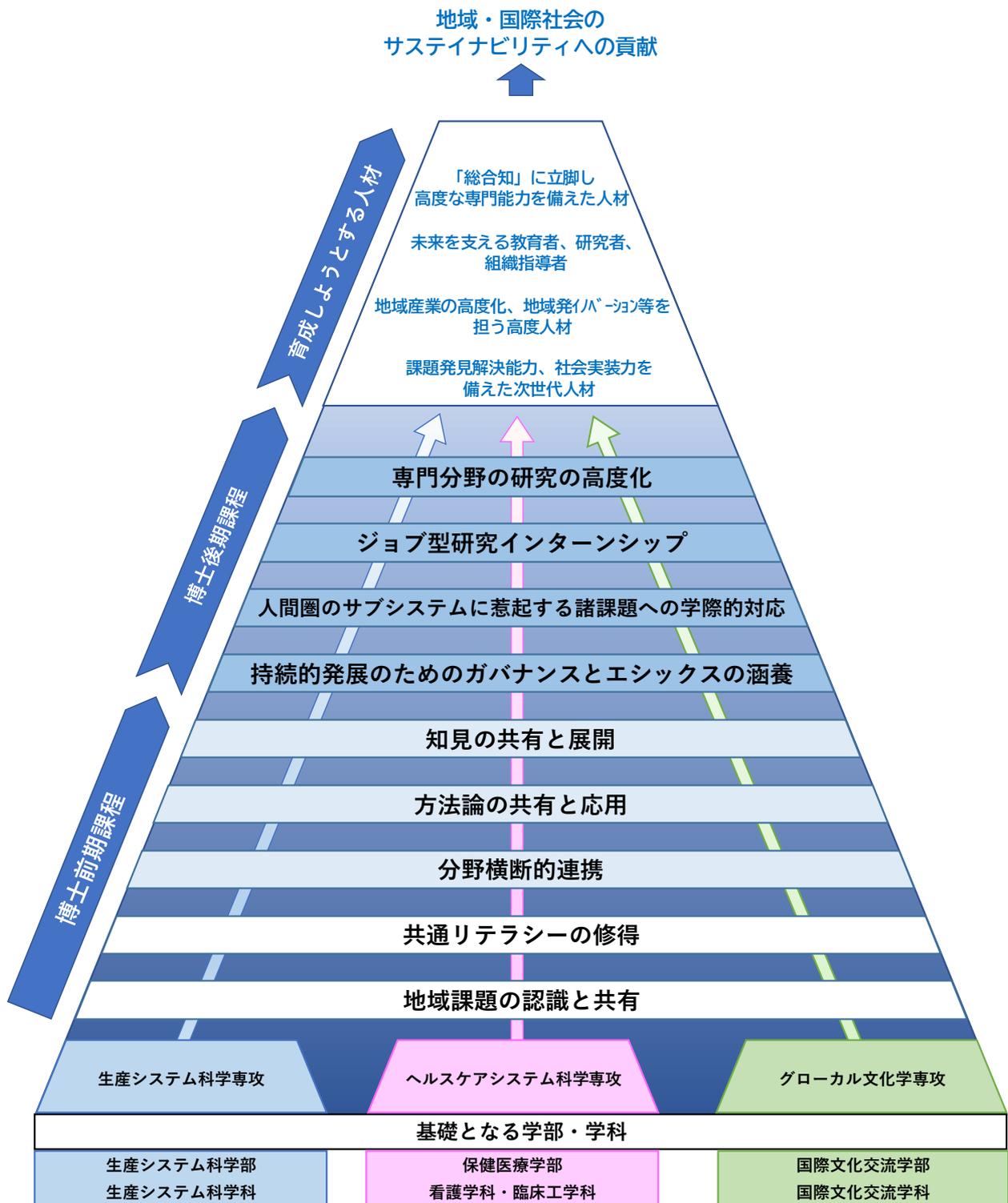
大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	医薬保健学総合研究科	保健学専攻 医学専攻	282,000 円	535,800 円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	(県内) 282,000 円 (県外) 423,000 円	535,800 円

グローバル文化学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	人間社会環境研究科	人間社会環境学専攻	282,000 円	535,800 円

●設置場所（アクセス）

- ・栗津キャンパス 石川県小松市四丁町又1番地3 (JR 栗津駅より徒歩で約12分)
- ・末広キャンパス 石川県小松市向本折町へ14番地1 (JR 小松駅より徒歩で約23分)
- ・中央キャンパス 石川県小松市土居原町10-10 (JR 小松駅より徒歩で約1分)



サステイナブルシステム科学研究科博士課程における教育課程編成の考え方

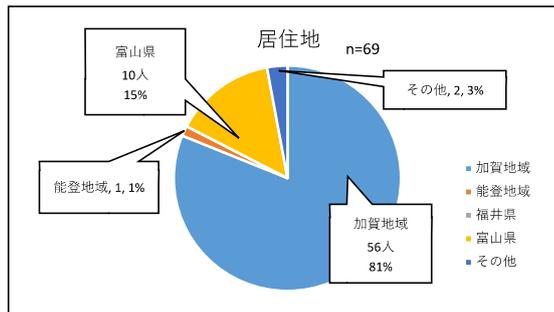
公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科（博士後期課程）  
 設置に関するアンケート調査【社会人用共通対象】  
 【入学意向調査結果（企業等）の概要】

1 調査概要

- (1) 調査主体  
公立大学法人公立小松大学
- (2) 調査目的  
「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、別途実施した採用意向調査の対象企業等の従業員等を対象に、本学大学院（博士後期課程）への入学意向を把握することを目的とする。
- (3) 主要調査項目  
  - 公立小松大学大学院への興味・関心
  - 公立小松大学大学院への受験希望
  - 公立小松大学大学院への入学希望
- (4) 調査対象  
石川県内を中心とする採用意向調査の対象企業等の従業員等（108企業）
- (5) 調査実施時期  
令和4年12月
- (6) 回答状況  
69人（回答率：64％）

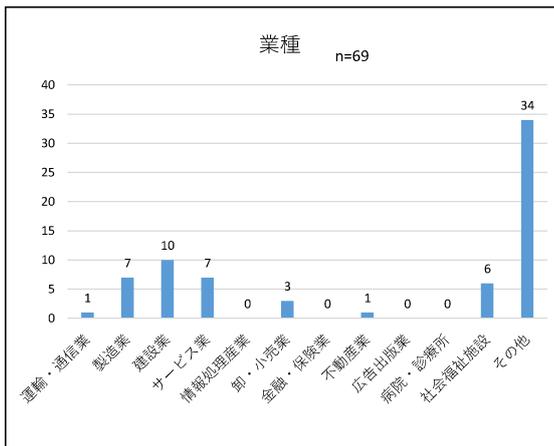
1. 居住地はどこですか。

加賀地域	56
能登地域	1
福井県	0
富山県	10
その他	2
【内訳】	
新潟県	2



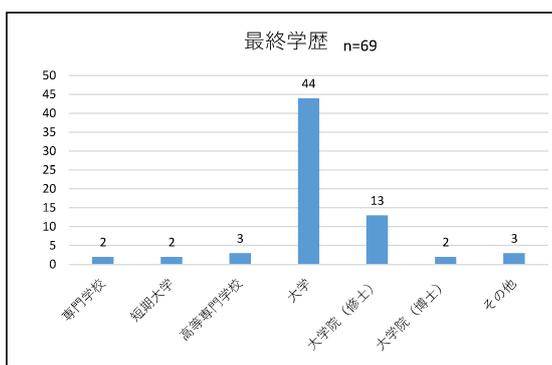
2. 業種はどれに該当しますか。次の中から1つ選んでください。

運輸・通信業	1
製造業	7
建設業	10
サービス業	7
情報処理産業	0
卸・小売業	3
金融・保険業	0
不動産業	1
広告出版業	0
病院・診療所	0
社会福祉施設	6
その他	34
【内訳】	
学校教育関係、大学教員	3
公務員。地方公務員、行政、行政機関、官公庁	26
電気事業	3
各種団体・団体職員	2



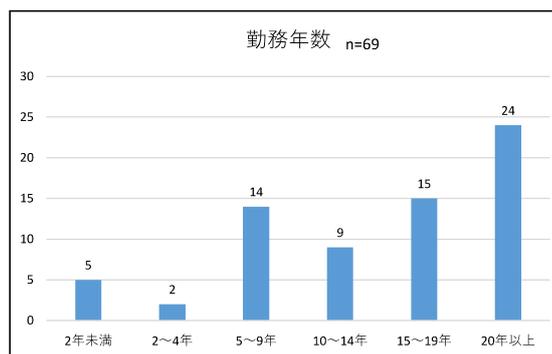
3. 最終学歴を次の中から1つ選んでください。

専門学校	2
短期大学	2
高等専門学校	3
大学	44
大学院（修士）	13
大学院（博士）	2
その他	3
【内訳】	
高等学校	3



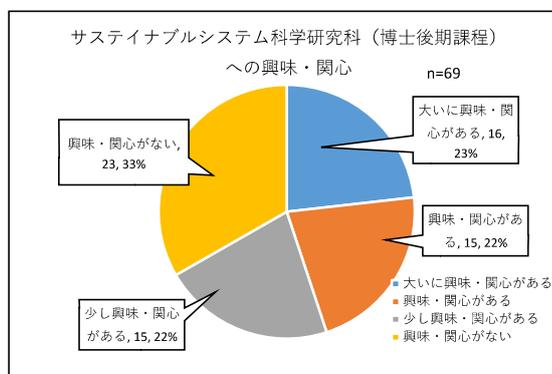
4. 勤務年数を次の中から1つ選んでください。

2年未満	5
2～4年	2
5～9年	14
10～14年	9
15～19年	15
20年以上	24



5. 令和6年（2024年）4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

大いに興味・関心がある	16
興味・関心がある	15
少し興味・関心がある	15
興味・関心がない	23



※これ以降は、全体の回答者数69人から本学大学院サステナブルシステム科学研究科（博士後期課程）に「興味・関心がない」の23人を外した人数で「生産システム科学専攻」への入学意向調査結果を表示します。

## 公立小松大学大学院生産システム科学専攻（博士後期課程）

### 設置に関するアンケート調査【社会人用共通対象】

#### 【入学意向調査結果（企業等）の概要】

#### 1 調査概要

##### (1) 調査主体

公立大学法人公立小松大学

##### (2) 調査目的

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、別途実施した採用意向調査の対象企業等の従業員等を対象に、本学大学院（博士後期課程）生産システム科学専攻への入学意向を把握することを目的とする。

##### (3) 主要調査項目

- 公立小松大学大学院への興味・関心
- 公立小松大学大学院への受験希望
- 公立小松大学大学院への入学希望

##### (4) 調査対象

石川県内を中心とする採用意向調査の対象ものづくり関連企業等の従業員等（78企業）

##### (5) 調査実施時期

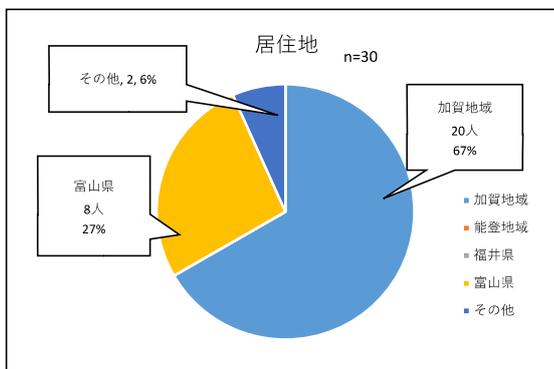
令和4年12月

##### (6) 回答状況

30人（回答率：38%）

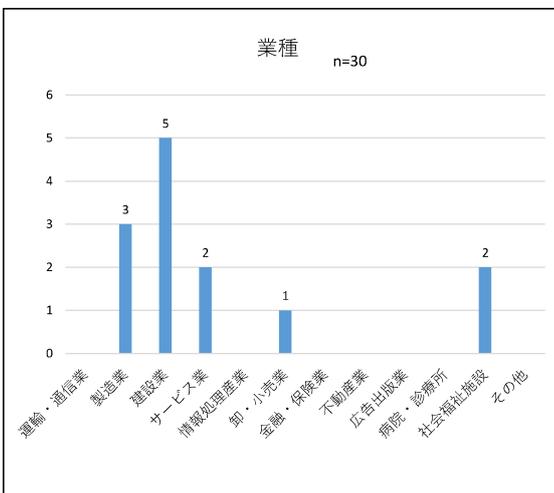
#### 1. 居住地はどこですか。

加賀地域	20
能登地域	0
福井県	0
富山県	8
その他	2
【内訳】	
新潟県	2



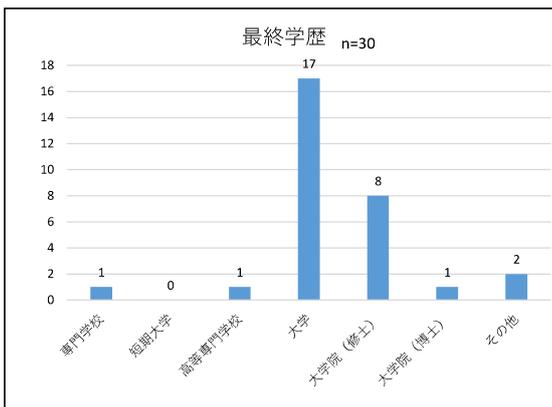
#### 2. 業種はどれに該当しますか。次の中から1つ選んでください。

運輸・通信業	
製造業	3
建設業	5
サービス業	2
情報処理産業	
卸・小売業	1
金融・保険業	
不動産業	
広告出版業	
病院・診療所	
社会福祉施設	2
その他	
【内訳】	
学校教育関係、大学教員	2
公務員、行政、行政機関、官公庁	14
地方公共団体	1



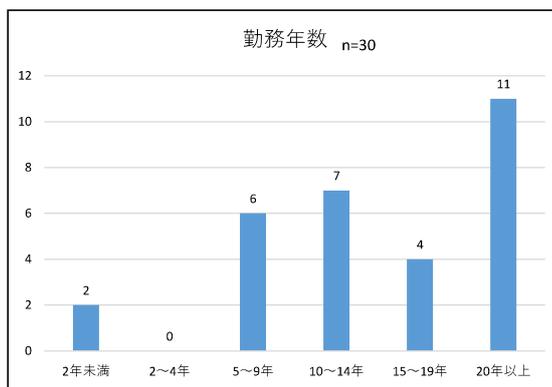
3. 最終学歴を次の中から1つ選んでください。

専門学校	1
短期大学	0
高等専門学校	1
大学	17
大学院（修士）	8
大学院（博士）	1
その他	2
【内訳】	
高等学校	2



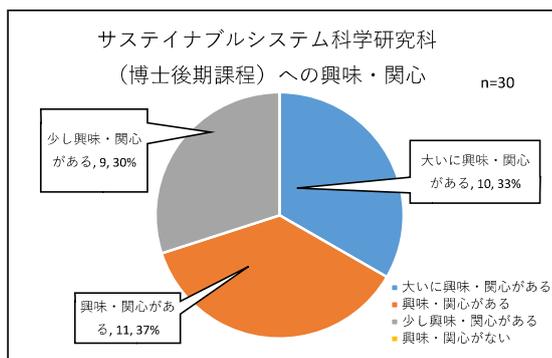
4. 勤務年数を次の中から1つ選んでください。

2年未満	2
2～4年	0
5～9年	6
10～14年	7
15～19年	4
20年以上	11



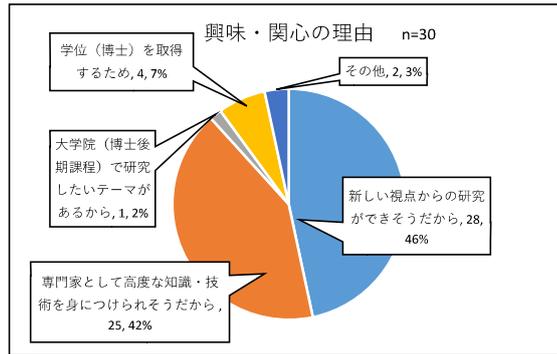
5. 令和6年（2024年）4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

大いに興味・関心がある	10
興味・関心がある	11
少し興味・関心がある	9
興味・関心がない	0



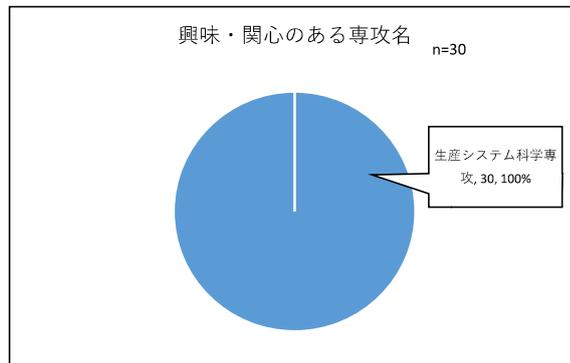
6. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。  
それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。

新しい視点からの研究ができそうだから	28
専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	25
大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから	1
学位（博士）を取得するため	4
その他	2
【内訳】	
地域と連携した最先端の研究に取り組んでもらえる どのような内容か?に興味あり	1 1



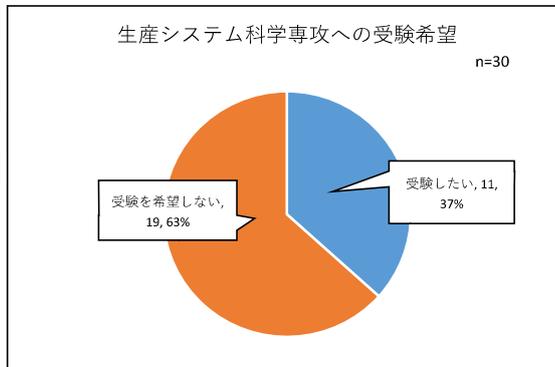
7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。  
それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。

生産システム科学専攻	30



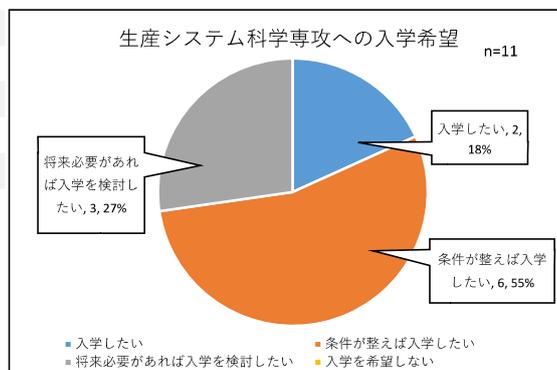
8. 本学に大学院（博士後期課程）が設置された場合、「生産システム科学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

受験したい	11
受験を希望しない	19



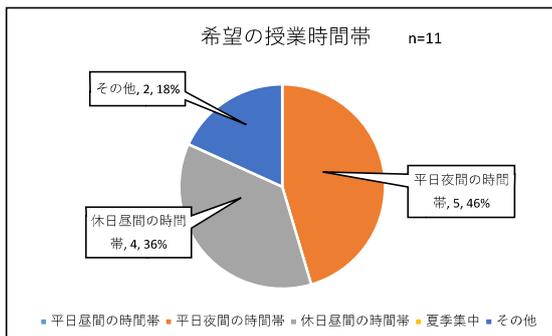
9. 生産システム科学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

入学したい	2
条件が整えば入学したい	6
将来必要があれば入学を検討したい	3
入学を希望しない	0



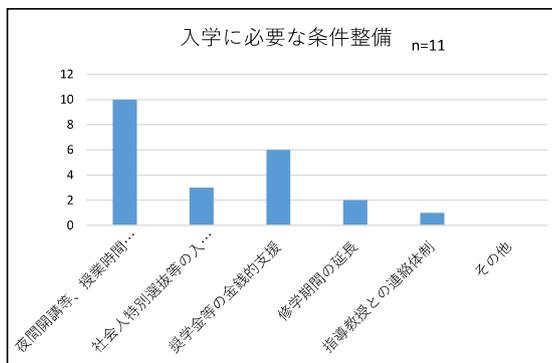
10. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。

平日昼間の時間帯	0
平日夜間の時間帯	5
休日昼間の時間帯	4
夏季集中	0
その他	2
【内訳】	
その時の状況による	1
休日	1



11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫	10
社会人特別選抜等の入学試験	3
奨学金等の金銭的支援	6
修学期間の延長	2
指導教授との連絡体制	1
その他	0



12. 公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置計画について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

1. 大変素晴らしい計画なので、是非設置を推進して頂きたいと思います。
2. 自分の子供が将来、選択肢として選べることはいいことだと思いました。
3. 特になし
4. 地域と連携し、地域課題の解決に取り組んで頂きたい。
5. なし
6. 新たな研究環境が整備されるのは良いことだと思います。
7. ぜひ、設置が実現した際には入学を検討させていただきたいと考えております。
8. 社会人に学問の門戸を広げるためにはよいと思う。ぜひ、進めてより良い大学院にしてほしい。

令和4年11月30日

各位（事業所、病院、施設等）

公立小松大学大学院  
サステイナブルシステム科学研究科  
研究科長 木村 繁男

大学院（博士後期課程）入学意向に関するアンケート調査に係る依頼文の配付について（依頼）

平素は、格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では、令和4年4月に開設した公立小松大学大学院（修士課程）に続き、令和6年4月を目標に、公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、今後の大学院（博士後期課程）設置認可申請に向けての重要な資料とするため、本アンケート調査に御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本アンケートは同封した「公立小松大学大学院（博士後期課程）」設置構想に関するアンケート調査」とは別の調査になります。両方とも御回答いただくよう、お願い申し上げます。

#### 記

#### 1 調査対象

本アンケートの対象は貴所属の従業員になります。従業員**5名程度**の方々に、別添の依頼文をお渡しいただきますようお願い申し上げます。（回答者の職位、勤続年数等は問いません）

#### 2 御回答方法

別添依頼文に記載の方法により、インターネット上のアンケートフォームへアクセスし、御回答いただきます。

#### 3 御回答期限 令和4年12月9日（金）

<担当> 公立小松大学  
学生課 学務・大学院担当 山崎、神田  
〒923-8511 石川県小松市四丁町ヌ1番地3  
TEL：0761-41-6700（代表）FAX：0761-44-3506  
URL：https://www.komatsu-u.ac.jp/

令和4年11月30日

従業員様

公立小松大学大学院  
サステイナブルシステム科学研究科  
研究科長 木村 繁男

大学院（博士後期課程）入学意向に関するアンケート調査について（依頼）

平素は、格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では、令和4年4月に開設した公立小松大学大学院（修士課程）に続き、令和6年4月を目標に、公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、今後の大学院（博士後期課程）設置認可申請に向けての重要な資料とするため、本アンケート調査に御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本調査の結果につきましては、調査目的以外に使用しないことを申し添えます。

記

1 御回答方法

以下のいずれかの方法により、インターネット上のアンケートフォームへアクセスし、御回答ください。**（御回答をお願いするフォーム：（社会人用共通）公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置に関するアンケート調査）**

① URLを入力し、アクセス

<https://forms.office.com/r/6LfpiPN8kz>

② QRコードからアクセス



2 御回答期限 令和4年12月9日（水）

<担当> 公立小松大学  
学生課 学務・大学院担当 山崎、神田  
〒923-8511 石川県小松市四丁町ヌ1番地3  
TEL：0761-41-6700（代表） FAX：0761-44-3506  
URL：https://www.komatsu-u.ac.jp/

# (社会人用共通) 公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科 (博士後期課程) 設置に関するアンケート調査

2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科 (博士後期課程) に関し、以下のアンケートを実施します。ご協力をお願いします。回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。



\* 必須

## 基本情報

1. 居住地はどこですか。 \*

- 加賀地域 (小松市、加賀市、能美市、川北町、白山市、野々市市、金沢市、かほく市、内灘町、津幡町)
- 能登地域 (羽咋市、七尾市、宝達志水町、中能登町、志賀町、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町)
- 福井県
- 富山県
- その他

2. 業種はどれに該当しますか。次の中から1つ選んでください。 \*

- 運輸・通信業
- 製造業
- 建設業
- サービス業
- 情報処理産業
- 卸・小売業
- 金融・保険業
- 不動産業
- 広告出版業
- 病院・診療所
- 社会福祉施設
- その他

3. 最終学歴を次の中から1つ選んでください。\*

- 専門学校
- 短期大学
- 高等専門学校
- 大学
- 大学院（修士）
- 大学院（博士）
- その他

4. 勤務年数を次の中から1つ選んでください。\*

- 2年未満
- 2～4年
- 5～9年
- 10～14年
- 15～19年
- 20年以上

次へ

\* 必須

## 設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科 (博士後期課程)」についてお尋ねします。

以下のサステイナブルシステム科学研究科 (博士後期課程) 設置構想リーフレットをご覧ください。

URL : [https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate\\_school\\_plan.pdf](https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate_school_plan.pdf)

5. 令和6年 (2024年) 4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科 (博士後期課程) についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。 \*

大いに興味・関心がある

興味・関心がある

少し興味・関心がある

興味・関心はない

6. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。 \*



2個のオプションを選択してください。

新しい視点からの研究ができそうだから

専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから

大学院 (博士後期課程) で研究したいテーマがあるから

学位 (博士) を取得するため

その他

7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。 \*

生産システム科学専攻

ヘルスケアシステム科学専攻

グローカル文化化学専攻

8. 本学に大学院（博士後期課程）が設置された場合、「生産システム科学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 受験したい
- 受験を希望しない

9. 生産システム科学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 入学したい
- 条件が整えば入学したい
- 将来必要があれば入学を検討したい
- 入学を希望しない

10. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。\*

- 平日昼間の時間帯
- 平日夜間の時間帯
- 休日昼間の時間帯
- 夏季集中
- その他

11. 「入学したい」「条件を整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。\* 

2個のオプションを選択してください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫

社会人特別選抜等の入学試験

奨学金等の全学的支援

修学期間の延長

指導教授との連絡体制

その他

12. 公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置計画について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください

回答を入力してください

戻る

送信

**（仮称）公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）**

・生産システム科学専攻 ・ヘルスケアシステム科学専攻 ・グローバル文化学専攻

令和6年（2024年）4月設置予定

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

**概要**

設置年月：令和6年（2024年）4月予定

設置場所：石川県小松市四丁町ヌ1番地3（本部）

名称：サステイナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻（博士後期課程）  
ヘルスケアシステム科学専攻（博士後期課程） グローバル文化学専攻（博士後期課程）

修業年限：3年 入学時期：4月

定員：生産システム科学専攻 2名、ヘルスケアシステム科学専攻 1名、グローバル文化学専攻 1名

学位：博士（工学）、博士（保健学）、博士（国際文化学）

**設置の理念**

本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探索すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者の育成を目指し、教育研究を推進する。

**養成する人材像**

「課題発見解決能力、社会実装力を備えた次世代人材」、「地域産業の高度化、地域発イノベーション等を担う高度人材」、「未来を支える教育者、研究者、組織指導者」、「『総合知』に立脚し、高度な専門能力を備えた人材」などの人材を育成し、「地域・国際社会へのサステナビリティへの貢献」をめざす。

**教育研究の特色**

①養成する人材像 ②開講予定科目 ③想定される修了後の進路

**・生産システム科学専攻〔学位：博士（工学）〕**

①持続的な社会の創造に対する意識および、サプライチェーンの不確実性などの社会情勢の変化に対する関心を常に持ちながら「ものづくり」による社会貢献を達成することが重要である。その下で「ものづくり」についての課題を見出し、専門的および学際的学識を修得して持続可能な社会に貢献する製品やシステムの研究、開発、生産プロセスの構築など、多様な方面で活躍できる人材育成をめざす。

②「環境熱流体解析学特論」、「先端製造テクノロジー特論」、「最適構造制御特論」、「先進IoT・AI特論」、「システム情報科学特論」

③製造業、エネルギー・材料関連産業、建設業、自動車・交通関連産業、高等教育研究機関、企業等研究所、地方公共団体・行政機関、研究職、設計開発職、生産管理職、大学教員、行政専門職など。



「トンネル火災実証実験室」

**・ヘルスケアシステム科学専攻〔学位：博士（保健学）〕**

①持続的に発展できるコミュニティヘルスケアを構築するために、健康と福祉に関する知識や研究能力を活用しかつ他分野の専門家とも積極的に協働していくことで、コミュニティヘルスケアに関する現存の課題の解決策を提案している高度専門職業人、研究者、および大学教員の育成をめざす。

②「コミュニティヘルスケア概論A」、「コミュニティヘルスケア概論B」、「コミュニティヘルスケアとユビキタス医工学特論」、「医療と多文化共生特論」

③保健福祉機関、病院、介護・リハビリテーション施設、医療機器・介護支援ハード&ソフトウェアメーカー、国際保健医療機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、看護師、臨床工学技士、システム開発者、メディカル・リプレゼンタティブ（MR）、大学教員、行政専門職、研究者、医療施設の経営者など。



「人工心肺装置」

・グローバル文化学専攻〔学位：博士（国際文化学）〕

- ①南加賀および北陸に軸足を置き、アジアを中心とした国際文化研究と連動させ、専門知識の深化と普遍的な思考、さらには分野を超えた専門的なスキルを有する人材を社会に送り出す。同時に、地域・国際課題を発見し、それを横断的・複眼的な視座から解決を試み、エシカルな行動様式を意識しながら、地域を活性化できる人材育成をめざす。
- ②「南加賀・北陸文化資源特論」、「国際文化学特論 A」、「国際文化学特論 B」、「グローバル文化学特論 A」、「グローバル文化学特論 B」
- ③情報産業、流通・製造業、総合商社、観光・旅行業、航空・交通業界、金融機関、マスコミ・出版関係企業、文化資源関係機関、国際機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、国内外ビジネスパーソン、国際機関職員、起業家、ツアープランナー、通訳、大学教員、行政機関の専門職など。



「ティカル遺跡(グアテマラ)」

●社会人に対する配慮

本研究科博士後期課程では、仕事に従事しながら学修を望む方への学修機会の提供を目的とし、社会人学生を積極的に受け入れています。長期履修学生制度及び昼夜開講制度を設け、在職のまま学びやすい環境を整えています。

- ・修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができ、在職のまま学びやすくなるよう配慮します。(長期履修学生制度)
- ・大学院設置基準第14条に規定する教育方法の特例に基づき、夜間等に履修できるように配慮します。(昼夜開講制)

●学生納付金（予定）

入学料：(市内者) 282,000 円、(その他) 423,000 円 授業料：(年間) 585,800 円  
 ※授業料減免・奨学金制度もあり

●競合する研究科の名称等

本研究科と類似する近隣大学院博士後期課程の納付金

生産システム科学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	自然科学研究科	自然システム学専攻	282,000 円	535,800 円
金沢工業大学大学院	工学研究科	機械工学専攻 情報工学専攻 電気電子工学専攻	250,000 円	1,011,000 円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	282,000 円	535,800 円

ヘルスケアシステム科学専攻

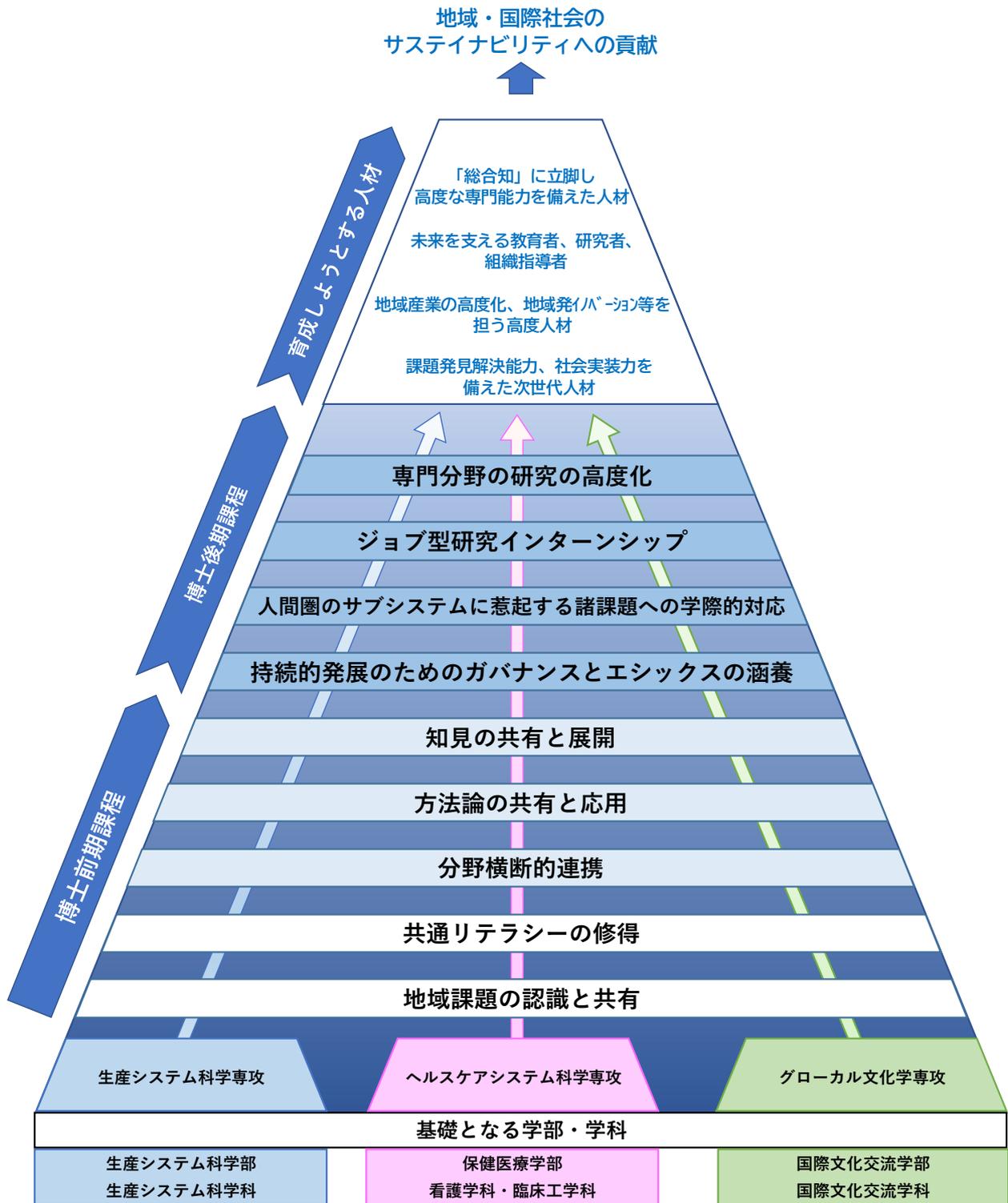
大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	医薬保健学総合研究科	保健学専攻 医学専攻	282,000 円	535,800 円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	(県内) 282,000 円 (県外) 423,000 円	535,800 円

グローバル文化学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	人間社会環境研究科	人間社会環境学専攻	282,000 円	535,800 円

●設置場所（アクセス）

- ・栗津キャンパス 石川県小松市四丁町又1番地3 (JR 栗津駅より徒歩で約12分)
- ・末広キャンパス 石川県小松市向本折町へ14番地1 (JR 小松駅より徒歩で約23分)
- ・中央キャンパス 石川県小松市土居原町10-10 (JR 小松駅より徒歩で約1分)



サステイナブルシステム科学研究科博士課程における教育課程編成の考え方

## 公立小松大学大学院設置構想に係るアンケート（生産システム科学専攻）

## 【入学意向調査結果（海外協定校及び共同研究関連校等）の概要】

## 1 調査概要

## (1) 調査主体

公立大学法人公立小松大学

## (2) 調査目的

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、本学協定校及び、共同研究関連校を対象に、本学大学院(博士後期課程) 生産システム科学専攻への進学意向を把握することを目的とする。

## (3) 主要調査項目

○公立小松大学大学院への入学候補者の推定数

## (4) 調査対象

海外協定校及び共同研究関連校等

## (5) 調査実施時期

令和4年12月

## (6) 回答状況

1校

大学名	対応する専攻	入学候補者 推定数	自由欄
King Mongkut's University (モンクット王工科大学トンブリー校) 地域：タイ 【部局間交流協定】	生産システム科学専攻	1.4 (※5年に7人 入学)	無

# Komatsu University

10-10 Doihara-machi, Komatsu  
923-0921, JAPAN  
Phone: +81-761-23-6600  
FAX: +81-761-48-3248



Name of institution: \_\_\_\_\_

Nation: \_\_\_\_\_

Name and position of a person in charge: \_\_\_\_\_

A putative number of candidate students: \_\_\_\_\_ per \_\_\_\_\_ year(s)

Comment: \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Date: \_\_\_\_\_

Signature: \_\_\_\_\_



December @ 2022

Dear Professor @@@@,

On behalf of Komatsu University, I am writing to you as the person in charge of exchanges between our two institutions.

Komatsu University is planning to open the Graduate School of Sustainable Systems Science (Doctoral Program) in April 2024. We have already opened the Graduate School of Sustainable Systems Science (master's program), the Division of Production Systems Science, the Division of Health Sciences, and the Division of Glocal Cultures in April 2022, starting with a two-year master's program, which will be followed by a three-year doctoral program. The basic philosophy of the Graduate School is "to provide students with the specialized knowledge and advanced skills necessary to contribute to the realization of a sustainable society in the fields of technology, health, and culture. Through the creation of new values that promise the well-being of a future society that inherits industry, welfare, and culture, the goal is to enable all people on earth to lead healthy and happy lives.

Each field is open to new graduates, professionals, and practitioners, both domestic and international, who, through sincere advice and cooperation with leading scholars and researchers, aim to develop their innovative and academic potential and achieve all-round results.

Accordingly, I would be very much obliged for it if you could suggest a putative number of candidates per year or a few years, who would positively consider to study abroad here at the Graduate School(Doctoral Program), Komatsu University. Attached you will find a form which you may use to enter the putative student number. In addition, I like to inform you that dormitories are available and that tuition fee exemption and scholarships are planned.

I thank you for your consideration and look forward to hearing from you soon.

Sincerely yours,

@@@@ @@@@, Ph.D.

Professor

Faculty of @@@@

Komatsu University

# Komatsu University

10-10 Doihara-machi, Komatsu  
923-0921, JAPAN  
Phone: +81-761-23-6600  
FAX: +81-761-48-3248



Name of institution: King Mongkut's University of Technology Thonburi

Nation: THAI

Name and position of a person in charge: Assoc.Prof.Komkrit Chomsuwan  
Associate Dean for Academic Affair and Educational System

A putative number of candidate students: 7 persons per 5 year(s)

Comment: \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

Date: Jan 11, 2023

Signature: 

公立小松大学大学院（博士後期課程）設置構想に係るアンケート（生産システム科学専攻）

【採用意向調査結果（事業所）の概要】

1 調査概要

(1) 調査主体

公立大学法人公立小松大学

(2) 調査目的

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、ものづくり関連企業を対象に、本学大学院（博士後期課程）設置の必要性や修了生の採用意向等を把握することを目的とする。

(3) 主要調査項目

- 企業・施設における人材（修了生）の必要性
- 公立小松大学大学院の修了生（博士号取得者）の採用意向

(4) 調査対象

石川県内ものづくり関連企業（78企業）

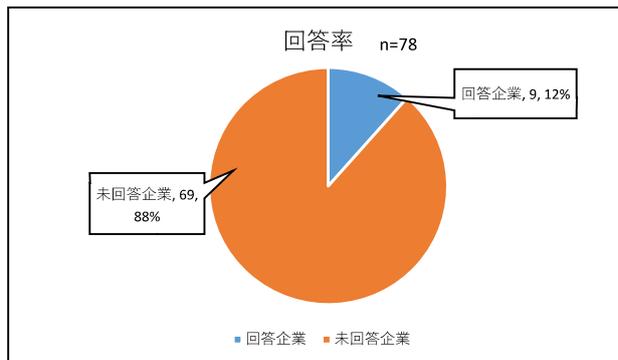
(5) 調査実施時期

令和4年12月

(6) 回答状況

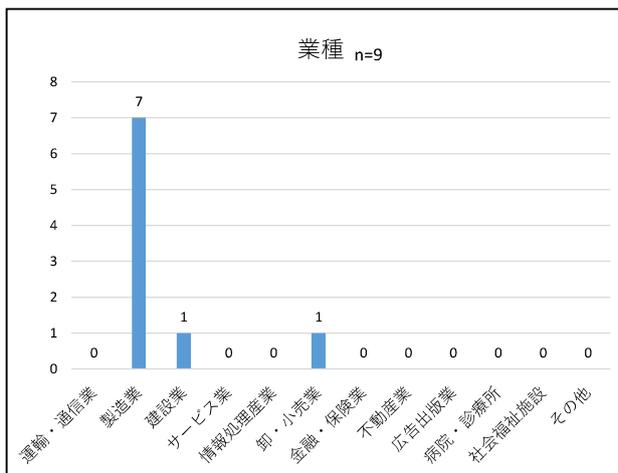
9団体（12%）

アンケート対象企業数	78
回答企業	9
未回答企業	69



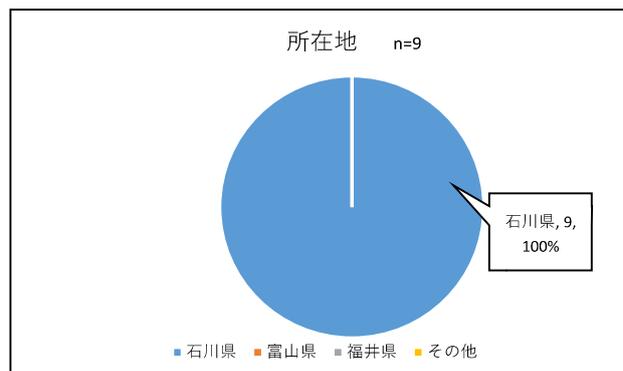
1.業種はどれに該当しますか。次の中から1つ選んでください。

運輸・通信業	0
製造業	7
建設業	1
サービス業	0
情報処理産業	0
卸・小売業	1
金融・保険業	0
不動産業	0
広告出版業	0
病院・診療所	0
社会福祉施設	0
その他	0



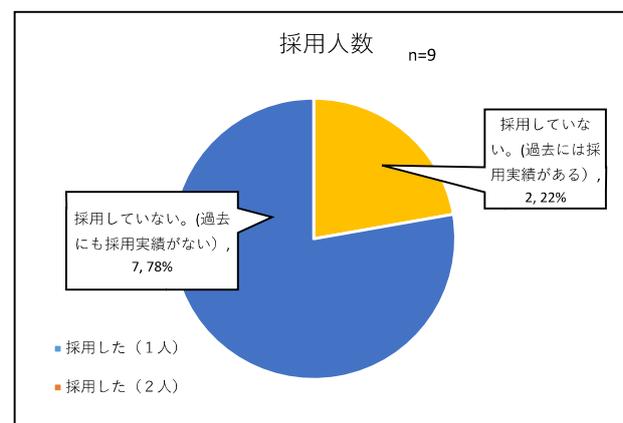
2. 所在地はどこですか。次の中から1つ選んでください。

石川県	9
富山県	0
福井県	0
その他	0



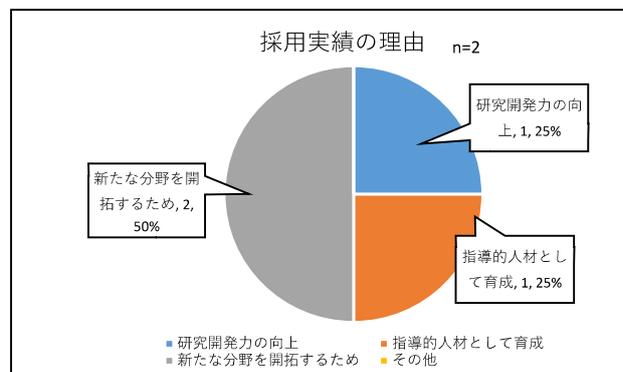
3. 今年度（令和4年4月入社）に大学院（博士後期課程）修了の人材を何人程度採用されましたか。その人数について、1つ選んでください。

採用した（1人）	0
採用した（2人）	0
採用した（3人以上）	0
採用していない。（過去には採用実績がある）	2
採用していない。（過去にも採用実績がない）	7



4. 大学院（博士後期課程）修了の人材を採用した実績があると回答された企業にお尋ねします。その理由は何ですか。次の中から2つ選んでください。

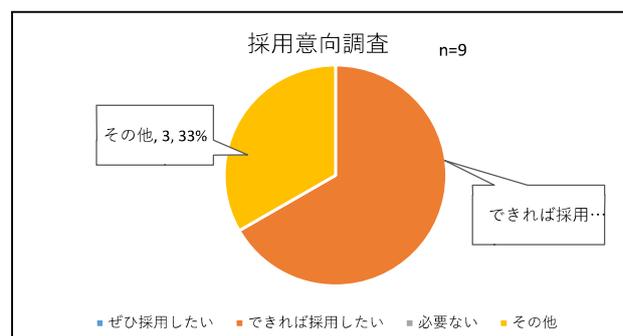
研究開発力の向上	1
指導的人材として育成	1
新たな分野を開拓するため	2
その他	0



5. 今後の大学院（博士後期課程）修了の人材採用について、どのようにお考えですか。

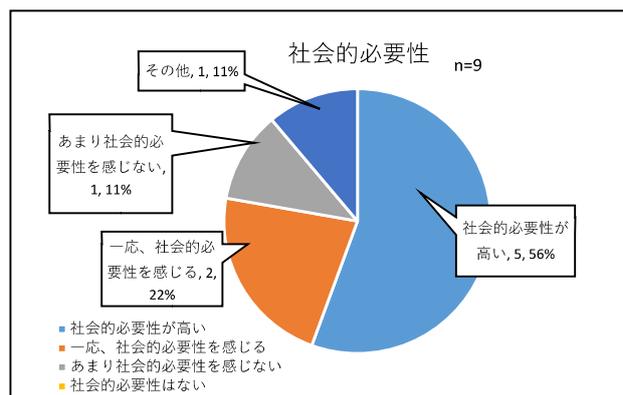
次の中から最もお考えに近いものを1つ選んでください。

ぜひ採用したい	0
できれば採用したい	6
必要ない	0
その他	3
【内訳】	
弊社に必要な人材と判断すれば採用します。	1
人材によって	1
人材次第	1



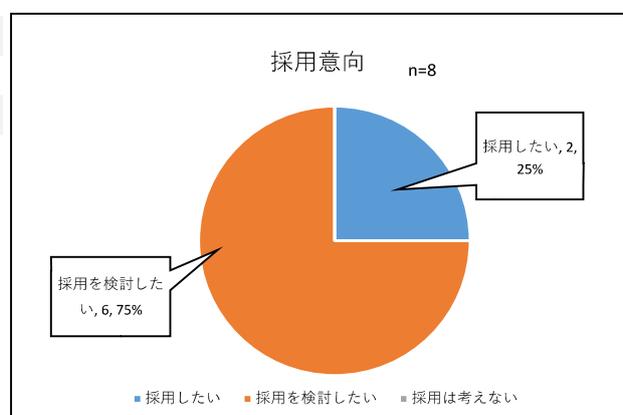
6. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻（博士後期課程）」の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から1つ選んでください。

社会的必要性が高い	5
一応、社会的必要性を感じる	2
あまり社会的必要性を感じない	1
社会的必要性はない	0
その他	1
【内訳】	
専攻内容の理解が不十分なので判断できません。	1



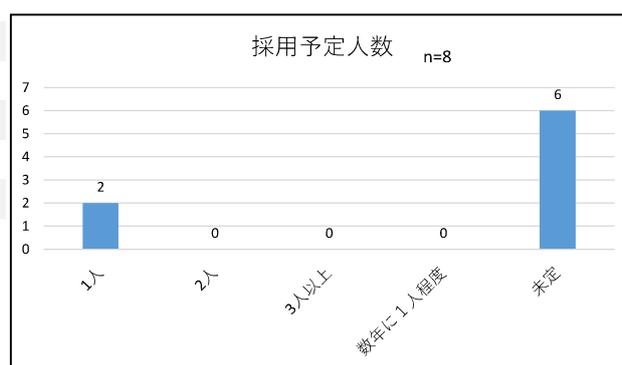
7. 貴社・貴施設では、設置計画中の「公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻（博士後期課程）」の修了生（博士号取得者）の採用を考えますか。次の中から1つ選んでください。

採用したい	2
採用を検討したい	6
採用は考えない	0



8. 「採用したい」「採用を検討したい」と回答された企業にお尋ねします。採用を検討される場合、毎年何人程度の採用を想定されますか。次の中から1つ選んでください。

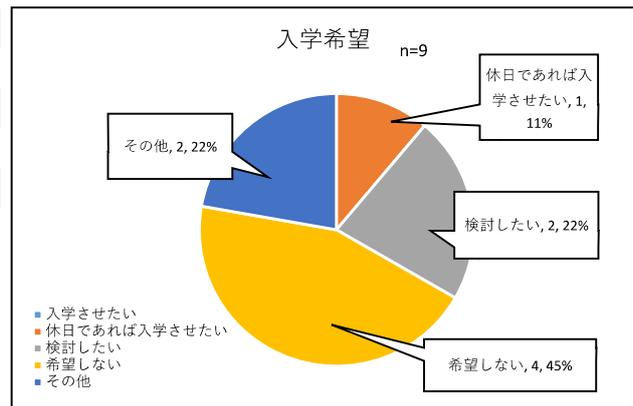
1人	2
2人	0
3人以上	0
数年に1人程度	0
未定	6



【その他意見】

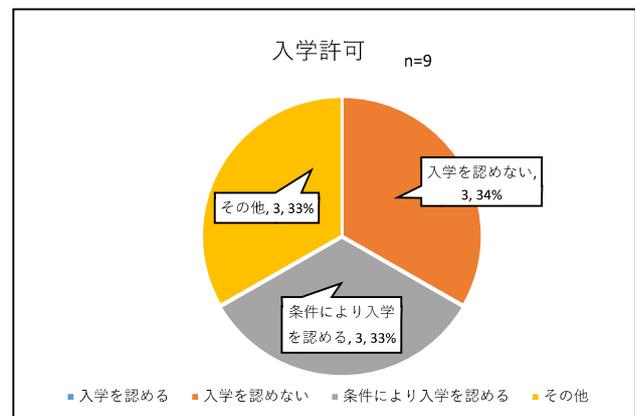
9. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻（博士後期課程）」に、貴社・貴施設で働く方の入学を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

入学させたい	0
休日であれば入学させたい	1
検討したい	2
希望しない	4
その他	2
【内訳】	
専攻内容の理解が不十分なので判断できません。	1
現在の情報量では未定	1



10. 貴社・貴施設では、仮に従業員の方から設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻（博士後期課程）」で在職のまま学びたいと申し出があった場合、入学を承認しますか。次の中から1つお選びください。

入学を認める	0
入学を認めない	3
条件により入学を認める	3
その他	3
【内訳】	
検討をする	1
現在の情報量では未定	1
カリキュラム及び開講時間次第	1



11. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻（博士後期課程）」について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

---

令和4年11月30日

各位（事業所、病院、施設等）

公立小松大学大学院  
サステイナブルシステム科学研究科  
研究科長 木村 繁男

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」設置構想に関するアンケート調査について（お願い）

平素は、格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では、令和4年4月に開設した公立小松大学大学院（修士課程）に続き、令和6年4月を目標に、公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、今後の大学院（博士後期課程）設置認可申請に向けての重要な資料とするため、本アンケート調査に御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本調査の結果につきましては、調査目的以外に使用しないことを申し添えます。

#### 記

##### 1 御回答方法

以下のいずれかの方法により、インターネット上のアンケートフォームへアクセスし、御回答ください。**（御回答をお願いする専攻：生産システム科学専攻）**

##### ① URLを入力し、アクセス

<https://forms.office.com/r/7YvFrv7yG7>

##### ② QRコードからアクセス



##### 2 御回答期限 令和4年12月9日（金）

<担当> 公立大学法人公立小松大学大学院  
学生課 学務・大学院担当 山崎、神田  
〒923-8511 石川県小松市四丁町又1番地3  
TEL：0761-41-6700（代表）FAX：0761-44-3506  
URL：https://www.komatsu-u.ac.jp/

令和4年11月30日

各位（事業所、病院、施設等）

公立小松大学大学院  
サステイナブルシステム科学研究科  
研究科長 木村 繁男

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」設置構想に関するアンケート調査について（お願い）

平素は、格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では、令和4年4月に開設した公立小松大学大学院（修士課程）に続き、令和6年4月を目標に、公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、今後の大学院（博士後期課程）設置認可申請に向けての重要な資料とするため、本アンケート調査に御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本調査の結果につきましては、調査目的以外に使用しないことを申し添えます。

## 記

### 1 御回答方法

以下のいずれかの方法により、インターネット上のアンケートフォームへアクセスし、御回答ください。

**（御回答をお願いする専攻：生産システム科学専攻・ヘルスケアシステム科学専攻・グローバル文化科学専攻）**

#### ① URL を入力し、アクセス

生産システム科学専攻：<https://forms.office.com/r/7YvFrv7yG7>

ヘルスケアシステム科学専攻：<https://forms.office.com/r/dVa9WvFZ4L>

グローバル文化科学専攻：<https://forms.office.com/r/9Kvt2XAJnV>

#### ③ QR コードからアクセス



生産システム科学専攻



ヘルスケアシステム科学専攻



グローバル文化科学専攻

### 2 御回答期限 令和4年12月9日（金）

<担当> 公立大学法人公立小松大学大学院  
学生課 学務・大学院担当 山崎、神田  
〒923-8511 石川県小松市四丁町又1番地3  
TEL：0761-41-6700（代表）FAX：0761-44-3506  
URL：<https://www.komatsu-u.ac.jp/>

令和4年11月30日

各位（事業所、病院、施設等）

公立小松大学大学院  
サステイナブルシステム科学研究科  
研究科長 木村 繁男

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」設置構想に関するアンケート調査について（お願い）

平素は、格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では、令和4年4月に開設した公立小松大学大学院（修士課程）に続き、令和6年4月を目標に、公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、今後の大学院（博士後期課程）設置認可申請に向けての重要な資料とするため、本アンケート調査に御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本調査の結果につきましては、調査目的以外に使用しないことを申し添えます。

## 記

### 1 御回答方法

以下のいずれかの方法により、インターネット上のアンケートフォームへアクセスし、御回答ください。

**（御回答をお願いする専攻：生産システム科学専攻・グローバル文化学専攻）**

#### ① URL を入力し、アクセス

生産システム科学専攻：<https://forms.office.com/r/7YvFrv7yG7>

グローバル文化学専攻：<https://forms.office.com/r/9Kvt2XAJnV>

#### ② QR コードからアクセス



生産システム科学専攻



グローバル文化学専攻

### 2 御回答期限 令和4年12月9日（金）

<担当> 公立大学法人公立小松大学大学院  
学生課 学務・大学院担当 山崎、神田  
〒923-8511 石川県小松市四丁町又1番地3  
TEL：0761-41-6700（代表）FAX：0761-44-3506  
URL：<https://www.komatsu-u.ac.jp/>

# 公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置構想に関するアンケート調査（生産システム科学専攻）

公立小松大学大学院（博士後期課程）サステイナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻設置構想にあたり、以下のアンケートを実施します。ご協力をお願いします。



\* 必須

貴社・貴施設についてお尋ねします。

1. 業種はどれに該当しますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 運輸・通信業
- 製造業
- 建設業
- サービス業
- 情報処理産業
- 卸・小売業
- 金融・保険業
- 不動産業
- 広告出版業
- 病院・診療所
- 社会福祉施設
- その他

2.所在地はどこですか。次の中から1つ選んでください。\*

石川県

富山県

福井県

その他

3.今年度（令和4年4月入社）に大学院（博士後期課程）修了の人材を何人程度採用されましたか。その人数について、1つ選んでください。\*

採用した（1人）

採用した（2人）

採用した（3人以上）

採用していない。（過去には採用実績がある）

採用していない。（過去にも採用実績がない）

次へ

4.大学院（博士後期課程）修了の人材を採用した実績があると回答された企業にお尋ねします。その理由は何ですか。次の中から2つ選んでください。\*

2個のオプションを選択してください。

研究開発力の向上

指導的人材として育成

新たな分野を開拓するため

その他

5. 今後の大学院（博士後期課程）修了の人材採用について、どのようにお考えですか。  
次の中から最もお考えに近いものを1つ選んでください。\*

- ぜひ採用したい
- できれば採用したい
- 必要ない
- その他

次へ

公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置構想に関するアンケート調査（生産システム科学専攻）

\* 必須

設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻（博士後期課程）」についてお尋ねします。

以下のサステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置構想リーフレットをご覧ください。

URL : [https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate\\_school\\_plan.pdf](https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate_school_plan.pdf)

6. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻（博士後期課程）」の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 社会的必要性が高い
- 一応、社会的必要性を感じる
- あまり社会的必要性を感じない
- 社会的必要性はない
- その他

7. 貴社・貴施設では、設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻（博士後期課程）」の修了生（博士号取得者）の採用を考えますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 採用したい
- 採用を検討したい
- 採用は考えない

8. 「採用したい」「採用を検討したい」と回答された企業にお尋ねします。採用を検討される場合、毎年何人程度の採用を想定されますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 1人
- 2人
- 3人以上
- 数年に1人程度
- 未定

9. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻（博士後期課程）」に、貴社・貴施設で働く方の入学を希望しますか。次の中から1つ選んでください。\*

- 入学させたい
- 休日であれば入学させたい
- 検討したい
- 希望しない

その他

10. 貴社・貴施設では、仮に従業員の方から設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻（博士後期課程）」で在職のまま学びたいと申し出があった場合、入学を承認しますか。次の中から1つお選びください。\*

入学を認める

入学を認めない

条件により入学を認める

その他

11. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻（博士後期課程）」について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

回答を入力してください

戻る

送信

**（仮称）公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）**

・生産システム科学専攻 ・ヘルスケアシステム科学専攻 ・グローバル文化化学専攻

令和6年（2024年）4月設置予定

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

**概要**

設置年月：令和6年（2024年）4月予定

設置場所：石川県小松市四丁町ヌ1番地3（本部）

名称：サステイナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻（博士後期課程）  
ヘルスケアシステム科学専攻（博士後期課程） グローバル文化化学専攻（博士後期課程）

修業年限：3年 入学時期：4月

定員：生産システム科学専攻 2名、ヘルスケアシステム科学専攻 1名、グローバル文化化学専攻 1名

学位：博士（工学）、博士（保健学）、博士（国際文化学）

**設置の理念**

本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探求すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者の育成を目指し、教育研究を推進する。

**養成する人材像**

「課題発見解決能力、社会実装力を備えた次世代人材」、「地域産業の高度化、地域発イノベーション等を担う高度人材」、「未来を支える教育者、研究者、組織指導者」、「『総合知』に立脚し、高度な専門能力を備えた人材」などの人材を育成し、「地域・国際社会へのサステナビリティへの貢献」をめざす。

**教育研究の特色**

①養成する人材像 ②開講予定科目 ③想定される修了後の進路

**・生産システム科学専攻〔学位：博士（工学）〕**

①持続的な社会の創造に対する意識および、サプライチェーンの不確実性などの社会情勢の変化に対する関心を常に持ちながら「ものづくり」による社会貢献を達成することが重要である。その下で「ものづくり」についての課題を見出し、専門的および学際的学識を修得して持続可能な社会に貢献する製品やシステムの研究、開発、生産プロセスの構築など、多様な方面で活躍できる人材育成をめざす。

②「環境熱流体解析学特論」、「先端製造テクノロジー特論」、「最適構造制御特論」、「先進IoT・AI特論」、「システム情報科学特論」

③製造業、エネルギー・材料関連産業、建設業、自動車・交通関連産業、高等教育研究機関、企業等研究所、地方公共団体・行政機関、研究職、設計開発職、生産管理職、大学教員、行政専門職など。



「トンネル火災実証実験室」

**・ヘルスケアシステム科学専攻〔学位：博士（保健学）〕**

①持続的に発展できるコミュニティヘルスケアを構築するために、健康と福祉に関する知識や研究能力を活用しかつ他分野の専門家とも積極的に協働していくことで、コミュニティヘルスケアに関する現存の課題の解決策を提案している高度専門職業人、研究者、および大学教員の育成をめざす。

②「コミュニティヘルスケア概論A」、「コミュニティヘルスケア概論B」、「コミュニティヘルスケアとユビキタス医工学特論」、「医療と多文化共生特論」

③保健福祉機関、病院、介護・リハビリテーション施設、医療機器・介護支援ハード&ソフトウェアメーカー、国際保健医療機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、看護師、臨床工学技士、システム開発者、メディカル・リプレゼンタティブ（MR）、大学教員、行政専門職、研究者、医療施設の経営者など。



「人工心肺装置」

・グローバル文化学専攻〔学位：博士（国際文化学）〕

- ①南加賀および北陸に軸足を置き、アジアを中心とした国際文化研究と連動させ、専門知識の深化と普遍的な思考、さらには分野を超えた専門的なスキルを有する人材を社会に送り出す。同時に、地域・国際課題を発見し、それを横断的・複眼的な視座から解決を試み、エシカルな行動様式を意識しながら、地域を活性化できる人材育成をめざす。
- ②「南加賀・北陸文化資源特論」、「国際文化学特論 A」、「国際文化学特論 B」、「グローバル文化学特論 A」、「グローバル文化学特論 B」
- ③情報産業、流通・製造業、総合商社、観光・旅行業、航空・交通業界、金融機関、マスコミ・出版関係企業、文化資源関係機関、国際機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、国内外ビジネスパーソン、国際機関職員、起業家、ツアープランナー、通訳、大学教員、行政機関の専門職など。



「ティカル遺跡(グアテマラ)」

●社会人に対する配慮

本研究科博士後期課程では、仕事に従事しながら学修を望む方への学修機会の提供を目的とし、社会人学生を積極的に受け入れています。長期履修学生制度及び昼夜開講制度を設け、在職のまま学びやすい環境を整えています。

- ・修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができ、在職のまま学びやすくなるよう配慮します。(長期履修学生制度)
- ・大学院設置基準第14条に規定する教育方法の特例に基づき、夜間等に履修できるように配慮します。(昼夜開講制)

●学生納付金（予定）

入学料：(市内者) 282,000 円、(その他) 423,000 円 授業料：(年間) 585,800 円  
 ※授業料減免・奨学金制度もあり

●競合する研究科の名称等

本研究科と類似する近隣大学院博士後期課程の納付金

生産システム科学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	自然科学研究科	自然システム学専攻	282,000 円	535,800 円
金沢工業大学大学院	工学研究科	機械工学専攻 情報工学専攻 電気電子工学専攻	250,000 円	1,011,000 円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	282,000 円	535,800 円

ヘルスケアシステム科学専攻

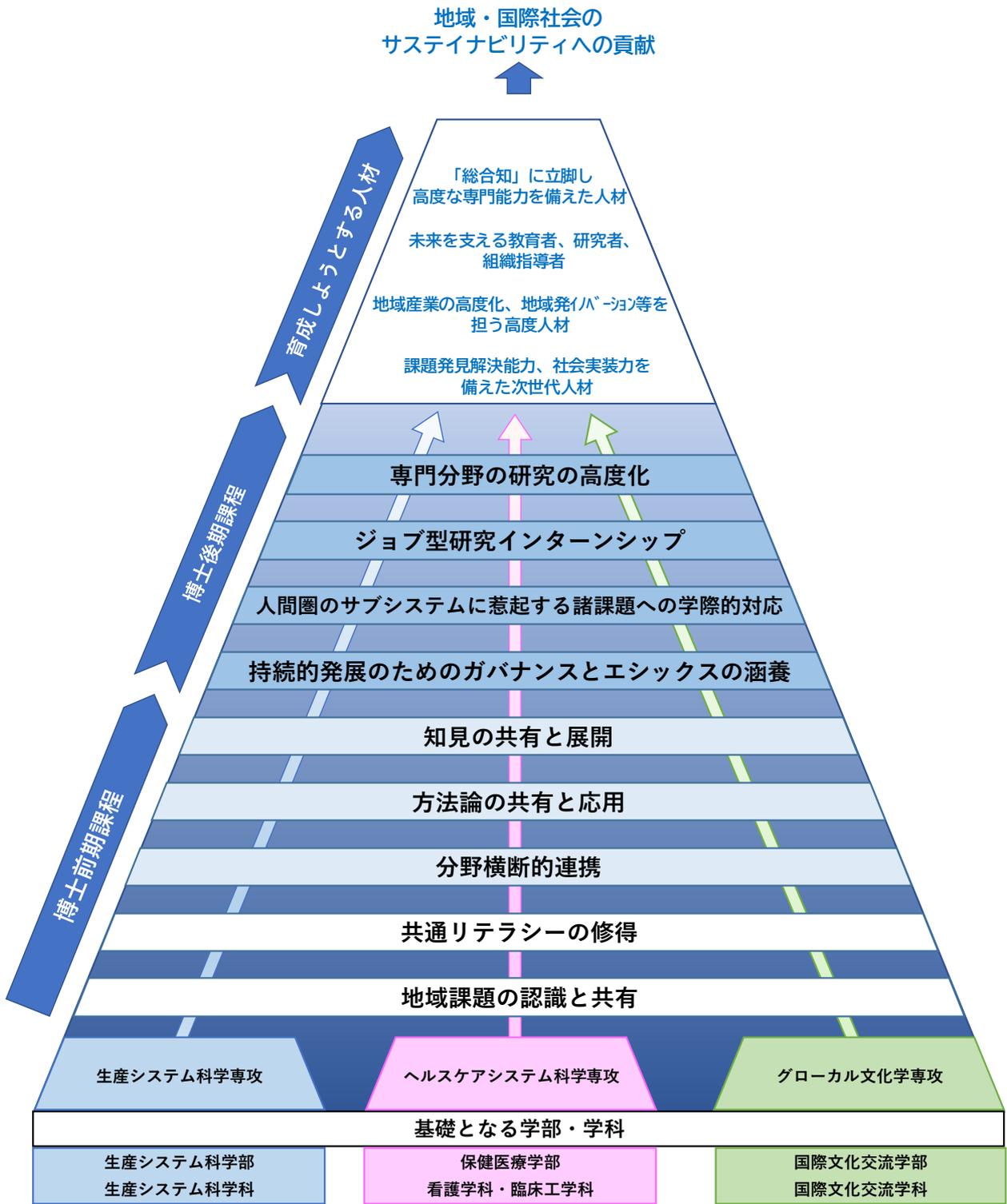
大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	医薬保健学総合研究科	保健学専攻 医学専攻	282,000 円	535,800 円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	(県内) 282,000 円 (県外) 423,000 円	535,800 円

グローバル文化学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	人間社会環境研究科	人間社会環境学専攻	282,000 円	535,800 円

●設置場所（アクセス）

- ・栗津キャンパス 石川県小松市四丁町又1番地3 (JR 栗津駅より徒歩で約12分)
- ・末広キャンパス 石川県小松市向本折町へ14番地1 (JR 小松駅より徒歩で約23分)
- ・中央キャンパス 石川県小松市土居原町10-10 (JR 小松駅より徒歩で約1分)



サステナブルシステム科学研究科博士課程における教育課程編成の考え方

石川県内に類似する分野を持つ大学院(博士後期課程)入学状況

※ 内部進学者数: 内部進学者数/(博士前期課程)修了者数(人数)  
 ※ 志願者数, 受験者数, 合格者数, 入学者数及び内部進学者数は, 4月期入学及び10月期入学を含む。  
 ※ 定員: 下段( )は博士前期課程の入学定員数。

1. 生産システム科学専攻

県名	大学院名	研究科名	専攻名	定員	人数	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	平均値	定員充足率(%)
石川県	1 金沢大学大学院	自然科学研究科	自然システム学専攻	21 (67)	志願者数	15	16	21	17.3	51%
					受験者数	15	16	21	17.3	
					合格者数	11	12	14	12.3	
					入学者数	7	12	13	10.7	
					内部進学者数	3/68	5/71	5/67	6.3%	
			機械科学専攻	25 (90)	志願者数	10	14	18	14.0	51%
					受験者数	10	14	18	14.0	
					合格者数	10	13	15	12.7	
					入学者数	10	13	15	12.7	
			電子情報科学専攻	18 (67)	志願者数	10	14	16	13.3	57%
					受験者数	10	14	15	13.0	
					合格者数	9	12	13	11.3	
	入学者数	7			13	11	10.3			
	内部進学者数	0/79			2/71	5/78	3.1%			
	2 北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	90 (282)	志願者数	120	137	125	127.3	113%
					受験者数	116	127	120	121.0	
					合格者数	104	114	101	106.3	
					入学者数	97	111	96	101.3	
					内部進学者数	47/297	50/322	41/259	15.7%	
	3 金沢工業大学大学院	工学研究科	機械工学専攻	5 (18)	志願者数	3	1	1	1.7	27%
					受験者数	3	1	1	1.7	
合格者数					3	1	1	1.7		
入学者数					3	1	0	1.3		
内部進学者数					1/61	/	/	0.5%		
情報工学専攻			5 (18)	志願者数	0	0	0	0.0	0%	
				受験者数	0	0	0	0.0		
				合格者数	0	0	0	0.0		
				入学者数	0	0	0	0.0		
				内部進学者数	/	/	/	0.0		
電気電子工学専攻			6 (18)	志願者数	0	2	2	1.3	22%	
				受験者数	0	2	2	1.3		
				合格者数	0	2	2	1.3		
				入学者数	0	2	2	1.3		
内部進学者数	/	1/42	2/44	3.4%						

金沢大学大学院 自然科学研究科

博士後期課程は、「数物科学専攻」、「物質化学専攻」、「機械科学専攻」、「電子情報科学専攻」、「環境デザイン学専攻」、「自然システム学専攻」の6専攻からなり、特定の専門分野について深い研究を行い得る研究者の養成のみならず、国際的に活躍する人材、産業界等各方面で活躍できる人材養成を目指し、大学院教育の更なる実質化・高度化を図ることを目的としています。

北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科

独自の大学院教育プログラムを通じて、専門分野・関連分野など幅広い知識を持ち、基礎概念を把握・理解し、問題発見能力・問題解決能力を身につけた国際性・創造性豊かな人材を育成しています。

金沢工業大学大学院工学研究科

工学研究科は、工学諸分野に関する解析能力と実践能力を有する創造性豊かな研究者又は高度な専門技術者を養成することを目的とする。



令和3年12月22日

## 令和3年度学校基本調査（確定値）の公表について

文部科学省は、学校教育行政に必要な学校に関する基本的事項を明らかにすることを目的として、標記調査を昭和23年度より毎年実施しています。  
今般、令和3年度の確定値をとりまとめたので、公表します。

## 1 調査内容

- (1) 調査期日：令和3年5月1日現在
- (2) 調査対象：幼稚園，幼保連携型認定こども園，小学校，中学校，義務教育学校，高等学校，中等教育学校，特別支援学校，大学，短期大学，高等専門学校，専修学校及び各種学校並びに市町村教育委員会
- (3) 調査項目：学校数，在学者数，教員数，卒業者数，進学者数，就職者数等

## 2 調査結果

主な結果は次頁以降の「令和3年度学校基本調査調査結果のポイント」のとおり。  
なお、詳細集計表は「政府統計の総合窓口（e-Stat）」に掲載。  
(<https://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001011528>)

## 3 今後の対応

都道府県を始め関係機関にお知らせするとともに、国及び地方における教育諸政策を検討・立案するための基礎資料として活用を図る。

＜担当＞ 総合教育政策局調査企画課  
課長 大野 彰子  
分析調査官 山本 典子  
学校基本調査係長 大瀬 寛彰  
電話：03-5253-4111（内線 2264）

### 3. 修士課程修了者

- 大学院等への進学率は、10.1%(前年度より0.3ポイント上昇)。
- 修了者に占める就職者の割合は、75.8%(前年度より2.1ポイント低下)。

表4 修士課程修了者の卒業後の状況

(単位:人,%)

区分	修了者	進学者(率)	就職者 (修了者に占める 就職者の割合)	有期雇用労働者 【雇用契約期間が 1ヵ月以上から1年 未満(率)】	臨時労働者(率)	一時的な仕事に就 いた者(率)	臨床研修医 (率)	左記以外の者 (率)	不詳・死亡の者 (率)	(再掲)進学者のう ち就職している者
平成22年3月	73,220	9,101 (12.4)	52,278 (71.4)	...	...	1,099 (1.5)	— (—)	8,687 (11.9)	2,281 (3.1)	226
23年3月	74,680	8,508 (11.4)	54,188 (72.6)	...	...	997 (1.3)	— (—)	9,048 (12.1)	2,121 (2.8)	182
24年3月	78,711	8,123 (10.3)	57,659 (73.3)	...	...	1,199 (1.5)	— (—)	10,266 (13.0)	1,692 (2.1)	228
25年3月	76,511	7,972 (10.4)	56,381 (73.7)	...	...	1,270 (1.7)	— (—)	9,540 (12.5)	1,565 (2.0)	217
26年3月	73,154	7,691 (10.5)	54,450 (74.4)	...	...	1,177 (1.6)	— (—)	8,751 (12.0)	1,288 (1.8)	203
27年3月	71,301	7,360 (10.3)	54,345 (76.2)	...	...	1,118 (1.6)	— (—)	7,498 (10.5)	1,187 (1.7)	207
28年3月	71,016	6,976 (9.8)	55,046 (77.5)	...	...	1,021 (1.4)	— (—)	6,986 (9.8)	1,212 (1.7)	225
29年3月	71,187	6,860 (9.6)	55,656 (78.2)	...	...	989 (1.4)	— (—)	6,795 (9.5)	1,114 (1.6)	227
30年3月	71,446	6,923 (9.7)	56,089 (78.5)	...	...	864 (1.2)	— (—)	6,828 (9.6)	954 (1.3)	212
31年3月	73,169	6,981 (9.5)	57,518 (78.6)	...	...	921 (1.3)	— (—)	6,842 (9.4)	1,133 (1.5)	226
令和2年3月	73,813	7,238 (9.8)	57,467 (77.9)	842 (1.1)	210 (0.3)	... (***)	1 (0.0)	7,378 (10.0)	965 (1.3)	288
令和3年3月	71,714	7,260 (10.1)	54,386 (75.8)	764 (1.1)	196 (0.3)	... (***)	1 (0.0)	8,577 (12.0)	750 (1.0)	221

- (注) 1 「進学者」には、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科・別科、専修学校、外国の学校へ入学した者を含む。  
 2 「就職者」には、自営業主等、無期雇用労働者、雇用契約期間が一年以上かつフルタイム勤務相当の有期雇用労働者及び進学者のうち就職している者を含む。  
 なお、進学者のうち就職している者は、「進学者」、「就職者」にそれぞれ計上されているため、項目横計と修了者は一致しない。  
 3 「左記以外の者」とは、進学でも就職でもないことが明らかな者である(進学準備中の者、就職準備中の者、家事の手伝いなど)。

図5 修士課程修了者の主な進路状況



(注) □で囲んだ年度は、最高値である。

# 我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について

## 教育未来創造会議 第一次提言

- ・高等教育の発展と少子化の進行（18歳人口は2022年からの10年間で9%減少）
- ・デジタル人材の不足（2030年には先端IT人材が54.5万人不足）
- ・グリーン人材の不足  
（2050カーボンニュートラル表明自治体のうち、約9割が外部人材の知見を必要とする）
- ・高等学校段階の理系離れ（高校において理系を選択する生徒は約2割）
- ・諸外国に比べて低い理工系の入学率  
（学部段階：OECD平均27%、日本17%、うち女性：OECD平均15%、日本7%）

・諸外国に比べ少ない修士・博士号の取得者  
（100万人当たり修士号取得者：英4,216人、独2,610人、米2,550人、日588人  
博士号取得者：英375人、独336人、韓296人、日120人）

- ・世帯収入が少ないほど低い大子進子希望者
- ・諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発  
（社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は、諸外国が2割を下回るのに対し、我が国は半数近く）
- ・進まないリカレント教育

・日本の社会と個人の未来は教育にある。教育の在り方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。  
・人への投資を通じて「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資する。

- ◎ 一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさの実現（ウェルビーイングを実現）
- ◎ ジェンダーギャップや貧困など社会的分断の改善
- ◎ 社会課題への対応、SDGsへの貢献（国民全体のデジタルリテラシーの向上や地球規模の課題への対応）
- ◎ 生産性の向上と産業経済の活性化
- ◎ 全世代学習社会の構築

### ◎ 未来を支える人材像

好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材

### <高等教育で培う資質・能力>

リテラシー/論理的思考力・規範的判断力/課題発見・解決能力/未来社会を構想・設計する力/高度専門職に必要な知識・能力

### ◎ 今後特に重視する人材育成の視点 ⇒ 産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿の提示

- ・ 予測不可能な時代に必要となる文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成
- ・ デジタル、人工知能、グリーン（脱炭素化など）、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成
- ・ 現在女子学生の割合が特に少ない理工系等を専攻する女性の増加（現在の理工系学生割合：女性7%、男性28%）
- ・ 高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加
- ・ 全ての子供が努力する意思があれば学ぶことができる環境整備
- ・ 一生涯、何度でも学び続ける意識、学びのモチベーションの涵養
- ・ 年齢、性別、地域等にかかわらず誰もが学び活躍できる環境整備
- ・ 幼児期・義務教育段階から企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化

現在35%にとどまっている自然科学（理系）分野の学問を専攻する学生の割合についてOECD諸国で最も高い水準である5割程度を目指すなど具体的な目標を設定

→ 今後5~10年程度の期間に集中的に意欲ある大学の主体性を生かした取組を推進

# 1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化



## (1) 進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等再編促進・産学官連携強化

- ① **デジタル・グリーン等の成長分野への再編・統合・拡充を促進する仕組み構築**
  - ・大学設置に係る規制の大胆な緩和（専任教員数や校地・校舎の面積基準、標準設置経費等）
  - ・再編に向けた初期投資（設備等整備、教育プログラム開発等）や開設年度からの継続的な支援（複数年度にわたり予見可能性を持って再編に取り組めるよう継続的な支援の方策等を検討）
  - ・教育の質や学生確保の見通しが十分でない大学等の定員増に関する設置認可審査の厳格化
  - ・私学助成に関する全体の構造的な見直し（定員未充足大学の減額率の引き上げ、不交付の厳格化等）
  - ・計画的な規模縮小・撤退等も含む経営指導の徹底
  - ・修学支援新制度の機関要件の厳格化（定員充足率8割以上の大学とする等）等
- ② **高専、専門学校、大学校、専門学校、専門高校の機能強化**
  - ・産業界や地域のニーズも踏まえた高専や専攻科の機能強化（デジタルなどの成長分野における定員増等）
  - ・専門学校や高専への改編等も視野に入れた専門学校等の充実 等
- ③ **大学の教育プログラム策定等における企業・地方公共団体の参画促進**
- ④ **企業における人材投資に係る開示の充実**
- ⑤ **地方公共団体と高等教育機関の連携強化促進**
- ⑥ **地域における大学の充実や高等教育進学機会の拡充**
- ⑦ **地域のニーズに合う人材育成のための産学官の連携強化（半導体、蓄電池）**



## (2) 学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受入れ強化

- ① **STEAM教育の強化・文理横断による総合知創出**
  - ・文理横断の観点からの入試出題科目見直し
  - ・ダブルメジャー、レイトスペシャライゼーションを推進するためのインセンティブ付与（教学マネジメント指針の見直し、設置認可審査や修学支援新制度の機関要件の審査での反映、基盤的経費配分におけるメリハリ付け等）等
- ② **「出口での質保証」の強化**
  - ・設置基準の見直しなど、ST比（教員一人当たりの学生数）の改善による教育体制の充実 等
- ③ **大学院教育の強化**
  - ・トップレベルの研究型大学院における学部から大学院への学内資源（定員等）の重点化 等
- ④ **博士課程学生向けジョブ型研究インターンシップの検証等**
- ⑤ **大学等の技術シーズを活かした産学での博士課程学生の育成**
- ⑥ **企業や官庁における博士人材の採用・任用強化**



## (3) 理工系や農学系の分野をはじめとした女性の活躍推進

- ① **女性活躍プログラムの強化**
  - ・女子学生の確保等に積極的に取り組む大学への基盤的経費による支援強化
  - ・大学ガバナンスコードの見直し、女性の在籍・登用状況等の情報開示の促進 等
- ② **官民共同修学支援プログラムの創設**
- ③ **女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進**
- (4) **グローバル人材の育成・活躍推進**
  - ① **コロナ禍で停滞した国際的な学生交流の再構築**
  - ② **産学官を挙げてのグローバル人材育成**
    - ・民間企業の寄附を通じて意欲ある学生の留学促進を行う「トビタテ！留学JAPAN」の発展的推進 等



## ③ 高度外国人材の育成・活躍推進

- ④ **高度外国人材の子供への教育の推進**
  - ・インターナショナルスクールの誘致等推進 等



## (5) デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換

- ① **知識と知恵を得るハイブリッド型教育への転換促進**
  - ・オンライン教育の規制緩和の特例の創設 等
- ② **オンラインを活用した大学間連携の促進**
- ③ **大学のDX促進**
  - ・デジタル技術やマイナパンカードの活用促進 等



## (6) 大学法人のガバナンス強化

- ① **社会のニーズを踏まえた大学法人運営の規律強化**
  - ・理事と評議員の兼職禁止、外部理事数の増、会計監査人による会計監査の制度化 等
- ② **世界と伍する研究大学の形成に向けた専門人材の経営参画の推進**
  - ・「国際卓越研究大学」における自律と責任あるガバナンス体制確立 等
- ③ **大学の運営基盤の強化**



## (7) 知識と知恵を得る初等中等教育の充実

- ① **文理横断教育の推進**
  - ・高校段階の早期の文・理の学習コース分けからの転換 等
- ② **個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の推進**
- ③ **課題発見・解決能力等を育む学習の充実**
- ④ **女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進（再掲）**
- ⑤ **子供の貧困対策の推進**
- ⑥ **学校・家庭・地域の連携・協働による教育の推進**
- ⑦ **分権型教育の推進**
- ⑧ **在外教育施設の教育環境整備の推進**

## 2. 新たな時代に対応する学びの支援の充実

-  (1) 学部段階の給付型奨学金と授業料減免の中間層への拡大  
・修学支援新制度の機関要件の厳格化を図りつつ、現在対象外の中間所得層について、多子世帯や理工系・農学系の学部で学ぶ学生等への支援に関し必要な改善の実施
-  (2) ライフイベントに応じた柔軟な返還（出世払い）の仕組みの創設  
・現行の貸与型奨学金について、無利子・有利子に関わらず、現在返還中の者も含めて利用できるよう、ライフイベント等も踏まえ、返還者の判断で柔軟に返還できる仕組みを創設  
・在学中は授業料を徴収せず、卒業（修了）後の所得に応じた返還・納付を可能とする新たな制度を、大学院段階において導入  
→ これらにより大学・大学院・高専等で学ぶ者がいずれも卒業後の所得に応じて柔軟に返還できる出世払いの仕組みを創設
-  (3) 官民共同修学支援プログラムの創設【再掲】

## 3. 学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備

-  (1) 学び直し成果の適切な評価
- ① 学修歴や必要とされる能力・学びの可視化等  
・個人の学修歴・職歴等に係るデジタル基盤整備  
・マイナポータルと連携したジョブ・カードの電子化 等
- ② 企業における学び直しの評価  
・企業内での計画的な人材育成、スキル・学習成果重視の評価体系の導入  
・通年・中途採用等の推進、社内起業・出向起業の支援等の取組の実践の促進  
・従業員が大学講座等で学び直し、好成績を修めた場合における報酬や昇進等で処遇する企業への新たな支援策の創設 等
- ③ 学び直し成果を活用したキャリアアップの促進  
・キャリアコンサルティング・コーチングの実施、キャリアアップに向けた学び直しプログラムの策定とプログラムの実施、その後の伴走支援を一気通貫で行う仕組みの創設 等
-  (2) 学が意欲がある人への支援の充実や環境整備
- ① 費用、時間等の問題を解決するための支援  
・教育訓練給付制度の対象外である者（自営業者等）に対する支援の実施  
・人材開発支援助成金制度におけるIT技術の知識・技能を習得させる訓練を高率助成に位置付けることなどによるデジタル人材育成の推進 等
- ② 高卒程度認定資格取得のための学び直しの支援
- ③ 高齢世代の学び直しの促進
-  (4) 博士課程学生に対する支援の充実  
・トップ層の若手研究者の個人支援や所属大学を通じた機関支援等の充実
-  (5) 地方公共団体や企業による奨学金の返還支援  
・若者が抱える奨学金の返還を地方公共団体が支援する取組の推進  
・企業による代理返還制度の活用を推進するための仕組みの検討（日本学生支援機構以外の奨学金や、海外の奨学金も含む）
-  (6) 入学期前の負担軽減  
・入学期の納付が困難な学生等について、納入時期を入学後に猶予する等の弾力的な取扱いの徹底
-  (7) 早期からの幅広い情報提供  
・奨学金に関する初等中等教育段階からの情報提供の促進
-  (3) 女性の学び直しの支援
- ① 女性の学び直しを促進するための環境整備  
・地方公共団体におけるデジタルスキルの取得とスキルを生かした就労を支援するための地域の実情に応じた取組に対する地域女性活躍推進交付金による支援 等
- ② 女性の学び直しのためのプログラムの充実  
・地域の大学・高専等における女性向けを含むデジタルリテラシー向上や管理職へのキャリアアップ等のために実施する実践的なプログラム等への支援 等
-  (4) 企業・教育機関・地方公共団体等の連携による体制整備
- ① リカレント教育について産学官で対話、連携を促進するための場の設置  
・都道府県単位で産学官関係者が協議する場の整備  
・地域の人材二一ズに対応した教育訓練コースの設定、教育訓練の効果検証等の推進  
・地域の産学官が連携して人材マッチング・育成等を総合的に行う「地域の人事部門」の構築
- ② 企業におけるリカレント教育による人材育成の強化  
・企業と大学等の共同講座設置支援  
・企業におけるリカレント教育推進に向けたガイドラインの策定 等
- ③ 大学等におけるリカレント教育の強化  
・大学における継続的なリカレント教育の実施強化を行うためのガイドラインの策定  
・リカレント教育推進に向けた組織の整備等、産業界を巻き込んだ仕組みづくりの支援 等
- ④ 地域におけるデジタル・グリーン分野等の人材育成  
・DX等成長分野のリテラシーレベルの能力取得・リスキングを実施するプログラムへの支援  
・脱炭素化に向けた高等教育機関が地域と課題解決に取り組む中での人材育成の支援  
・農業大学校等におけるスマート農林水産業のカリキュラム充実、デジタル人材育成  
・IT、マーケティング、地域振興の知見・スキルを有する観光人材の育成推進 等

**我が国の未来をけん引する  
大学等と社会の在り方について  
(第一次提言)**

**令和4年5月10日**

**教育未来創造会議**

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について  
(第一次提言)

目次

はじめに	3
I. 背景	4
1. 我が国の現状	4
2. 人材育成を取り巻く課題	4
(1) 高等教育の発展と少子化の進行	4
(2) デジタル人材の不足	5
(3) グリーン人材の不足	5
(4) 高等学校段階の理系離れ	5
(5) 諸外国に比べて低い理工系への入学者	6
(6) 諸外国に比べ少ない修士・博士号の取得者	6
(7) 世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者	7
(8) 諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発	7
(9) 進まないリカレント教育	7
II. 基本的考え方	8
1. 基本理念	8
2. 在りたい社会像	8
(1) 一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ（ウェルビーイング）の実現	8
(2) ジェンダーギャップや貧困など社会的分断の改善	8
(3) 社会課題への対応、SDGs への貢献	8
(4) 生産性の向上と産業経済の活性化	9
(5) 全世代学習社会の構築	9
3. 目指したい人材育成の在り方	9
(1) 未来を支える人材像	9
(2) 今後特に重視する人材育成の視点	10
III. 具体的方策	11
1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化	11
(1) 進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等の再編促進と産学官連携強化	12
(2) 学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受け入れ強化	16
(3) 理工系や農学系の分野をはじめとした女性の活躍推進	18

(4) グローバル人材の育成・活躍推進 .....	19
(5) デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換 .....	20
(6) 大学法人のガバナンス強化 .....	21
(7) 知識と知恵を得る初等中等教育の充実 .....	22
2. 新たな時代に対応する学びの支援の充実 .....	25
3. 学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備 .....	28
(1) 学び直し成果の適切な評価 .....	29
(2) 学ぶ意欲がある人への支援の充実や環境整備 .....	30
(3) 女性の学び直しの支援 .....	32
(4) 企業・教育機関・地方公共団体等の連携による体制整備 .....	34
おわりに .....	37

## はじめに

本提言は、内閣総理大臣を議長とする教育未来創造会議において、有識者の参画の下で議論を重ね、関係省庁とも連携しながら、我が国の未来を担う大学等と社会の在り方について取りまとめたものである。我が国が置かれている現状や人材育成を取り巻く課題を踏まえ、基本理念、在りたい社会像、目指したい人材育成の在り方を整理した上で、①未来を支える人材を育む大学等の機能強化、②新たな時代に対応する学びの支援の充実、③学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備、に特に焦点を当てて、今後取り組むべき具体的方策を提示する。

今後、本提言で示した事項について、断固たる意思をもって速やかに実行に移すこととする。

い一方で、文理選択において理系を選択する割合は男子 27%に対して女子 16%にとどまるなど、その差が顕著となっている。

PISA (OECD 生徒の学習到達度調査) における保護者質問調査 (2012 年) に参加した 10 の国・地域の結果では、子供に科学や技術、工学、数学などの分野の職に就いてほしいと願っている両親の期待感は、15 歳の息子と娘の数学の成績が同じ場合でも、息子に対する期待感の方が娘に対する期待感より高かったことが報告されている<sup>17</sup>。日本においても、子供の頃から「女子は理系には向いていない」など根拠のないバイアスが保護者・学校・社会からかかり、女子の理系への進路選択の可能性が狭められていることが考えられる<sup>18</sup>。

#### (5) 諸外国に比べて低い理工系への入学者

OECD 諸国の中で、日本は理工系 (理学・工学系) に入学する者 (大学学部段階) は OECD 平均より大幅に低い状況 (OECD 平均 27%、日本 17%) にあり、同分野の卒業生数に係る近年の推移を見ても、2014 年から 2019 年までの 5 年間で、OECD 加盟国の多くは理工系学部の学生数を増やしている一方で我が国ではほとんど変わっていない<sup>19</sup>。

さらに、大学の学部段階で理工系を専攻する女性は 7%にとどまっており、男性の 28%に比べると低い状況にある<sup>20</sup>。また、理工系学部への進学者は同年代の女子全体のうち 3%<sup>21</sup>に過ぎず、特に大学学部の女性入学者に占める理工系分野への入学者は 7%であり、OECD 平均 (15%) に比べても大幅に低い状況にある<sup>22</sup>。

#### (6) 諸外国に比べ少ない修士・博士号の取得者

修士・博士号の取得者 (2018 年度) も諸外国に比べて少なく、人口 100 万人当たりの修士号の取得者は英国 4,216 人、ドイツ 2,610 人、米国 2,550 人である一方、日本は 588 人であり、博士号取得者も英国 375 人、ドイツ 336 人、韓国 296 人 (2019 年度) に比べ、日本は 120 人にとどまっている<sup>23</sup>。

また、米国企業の経営者は 7 割程度が大学院卒であるのに対して、日本の経営者の大学院卒は 2 割弱にとどまっている<sup>24</sup>。

<sup>17</sup> OECD 「The ABC of Gender Equality in Education: Aptitude, Behaviour, Confidence」(2015 年) より。ハンガリー、ポルトガル、チリ、イタリア、クロアチア、ドイツ、メキシコ、香港、韓国、マカオが調査に参加。

<sup>18</sup> 総合科学技術・イノベーション会議教育・人材育成ワーキンググループ「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ案」(令和 4 年 4 月 22 日統合イノベーション戦略推進会議了承)

<sup>19</sup> OECD.stat 「New entrants by field」より。「理工系」は OECD 統計上 “Natural sciences, mathematics and statistics”, “Information and Communication Technologies”, “Engineering, manufacturing and construction” を指す。

<sup>20</sup> 文部科学省「学校基本統計 (令和 3 年度)」

<sup>21</sup> 文部科学省「学校基本統計 (令和元年度、令和 3 年度)」

<sup>22</sup> OECD.stat 「New entrants by field」

<sup>23</sup> 文部科学省 科学技術・学術政策研究所「科学技術指標 2021 (調査資料-311)」(2021 年 8 月)

<sup>24</sup> 役員四季報や信頼できる公開情報 (企業 HP など) から経済産業省が調査

### (7) 世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者

日本では14%の子供が相対的に貧困の状態にあると言われている<sup>25</sup>。

中学生のいる世帯のうち、収入水準が低い家庭やひとり親家庭では、生徒自身・保護者ともに、進学は高校までと考える割合が高くなり、大学以上の段階への進学希望は低下する傾向があり、進学希望を「高校まで」とする生徒のうち、収入水準が低い生徒は周囲の考えや家庭の経済状況に左右される割合が高くなる傾向がある。さらに収入水準が低い家庭やひとり親家庭では、成績上位者の割合が低く、成績下位者の割合が高くなるほか、授業以外での勉強時間も少なくなる傾向がある<sup>26</sup>。

学生の状況に目を転じれば、大学への進学率は約5割（短大、高専、専門学校も含めると約8割）<sup>27</sup>であるが、世帯収入が少ないほど大学進学を希望する割合が低く、この傾向は授業料の比較的低い国公立大学においても確認できる。また、年収650万円未満の世帯は平均よりも低い<sup>28</sup>。

### (8) 諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発

日本企業はOJTの水準は高いものの、それ以外の人材投資（GDP比）は、諸外国と比べても低調な状況にある<sup>29</sup>。また、社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は半数近くで、諸外国が2割程度を下回っていることと比較すると高い状況にある<sup>30</sup>。

### (9) 進まないリカレント教育

仕事関連の成人学習参加率への参加率が高い国ほど、時間当たりの労働生産性が高い傾向にある<sup>31</sup>。

他方で、我が国においては、時間、費用等の制約から学び直しに二の足を踏む傾向が見られ、社会人の大学・大学院入学者割合は諸外国に比べて低くなっている<sup>32</sup>。

<sup>25</sup> OECD「Income Distribution Database」(2018)

<sup>26</sup> 内閣府「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」

<sup>27</sup> 文部科学省「学校基本統計（令和3年度）」

<sup>28</sup> 文部科学省・国立教育政策研究所「高校生の進路に関する保護者調査」（2019年12月）

<sup>29</sup> 学習院大学宮川教授による推計（厚生労働省「平成30年版労働経済の分析」に掲載）

<sup>30</sup> パーソル総合研究所「APAC 就業実態・成長意識調査」（2019年8月）

<sup>31</sup> OECD「Programme for the International Assessment of Adult Competencies」（2012, 2015, 2019）

<sup>32</sup> OECD「Share of new entrants below the typical age」

## ＜具体的取組＞

### ①女性活躍プログラムの強化

- ・ 女子学生の占める割合の少ない分野の大学入学者選抜における女子学生枠の確保等に積極的に取り組む大学等に対して、運営費交付金や私学助成による支援を強化する。
- ・ 大学の教員等の出産・育児等のライフイベントと研究活動の両立を支援する施策を充実する。
- ・ 運営費交付金等、大学への資源配分において女性登用のインセンティブの付与を行う。
- ・ 女性管理職の登用拡大に向けた大学ガバナンスコードの見直し、学部ごとの女子学生・女性教員の在籍・登用状況などの情報開示の促進を図る。

### ②官民共同修学支援プログラムの創設

- ・ 2. ①の取組と併せ、理工系や農学系の分野に進学する女子学生への官民共同の修学支援プログラムを創設する。

### ③女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進

- ・ 幼少期からの保護者や学校、社会による理数への学びや性別役割分担にかかるジェンダーバイアスを排除し、社会的機運を醸成する。
- ・ 中学校、高等学校等への大学等の出前講座、ロールモデルに出会う機会の充実など理系選択者の増加に向けた取組を推進する。

## （４）グローバル人材の育成・活躍推進

コロナ禍では我が国だけでなく世界各国において、大学間交流や学生間交流などに深刻な影響があった<sup>45</sup>が、遠隔・オンライン教育の利点を積極的に活用しながら、外国人留学生の受入れ及び日本人学生の送り出しの双方向の交流の再構築を行うとともに、産学官を挙げたグローバル人材の育成、高度外国人材の育成・活躍推進を図る。

さらに、海外からのより多くの高度専門人材の来日を促進することも今後の国際力強化の視点から重要であり、外国人の子供の教育環境・生活環境改善に向けて、インターナショナルスクールの誘致等を進めるとともに、国内の小・中・高等学校等での受入れ及び教育環境の整備を推進する。

## ＜具体的取組＞

### ①コロナ禍で停滞した国際的な学生交流の再構築

<sup>45</sup> コロナ禍前においても、諸外国における海外留学者数は、特に中国・インドが伸張していた一方で日本は停滞状況にあった。

- ・ 我が国発のオンライン国際教育プラットフォームを構築するとともに、時代・社会のニーズを踏まえた国際的學生交流や大学の国際化の支援を行う。
- ・ 留学生や外国人教員・研究者のための宿舎について、複数主体が連携・協力して確保する等の取組事例の周知を図る。

### ②産学官を挙げてのグローバル人材育成

- ・ 高校段階からの段階に応じた海外留学支援を強化する。
- ・ 民間企業の寄附を通じて意欲ある学生の留学促進を行う「トビタテ！留学JAPAN」の発展的推進など、若者の海外留学促進に向けて企業、地方公共団体の参画を促進する。
- ・ 企業等における採用・人材育成面での海外留学経験の評価を促進する。

### ③高度外国人材の育成・活躍推進

- ・ 大学等における外国人留學生の就職・起業支援の強化を図る。
- ・ アジア諸国の高度人材について日本企業及び日系企業への就職機会の提供支援（アジア未来投資イニシアティブ）の強化を図る。
- ・ 優秀な高度外国人材の採用に向けた企業文化の改革を促進する。
- ・ 地域の地方公共団体・大学・経済団体・地場企業等から構成されたコンソーシアムを形成するなど、外国人留學生の就職・定着・起業の支援に向けた連携を強化する。
- ・ 日本企業における高度外国人材の採用、各種手続、活躍までの継続的な支援を行う。

### ④高度外国人材の子供への教育の推進

- ・ 海外のボーディングスクール（寄宿制学校）をはじめとするインターナショナルスクール誘致等を推進する。
- ・ 外国人の子供の就学を支援するとともに、学校での日本語指導体制の構築など、教育環境の整備を推進する。

## (5) デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換

グローバル化への対応を進めるとともに、同大学での異なるキャンパス間での連携や、それぞれの大学の強みを生かした国内外との大学間連携、さらには時間や場所に制約されずに学ぶことができるリカレント教育をより一層推進するため、デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育を進める。

一方、特に若年層の教育に際しては、課題解決型やアクティブ・ラーニングなど、人が直接対面し、対話を経験することにも留意する。

令和4年4月



## 2020（令和2）年度 外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果

### 1. 2020（令和2）年度外国人留学生進路状況調査

この調査は、2020年度中（2020年4月1日から2021年3月31日まで）に卒業（修了）した外国人留学生の進路状況について、調査したものである。

### 2. 2020（令和2）年度外国人留学生学位授与状況調査

この調査は、2020年度中（2020年4月1日から2021年3月31日まで）に我が国の大学院において学位の授与があった外国人留学生の状況について、調査したものである。

注1）これらの調査でいう「外国人留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生をいう。

注2）四捨五入した数を使用している表では、内訳の数の合計が、計欄の数と一致しない場合がある。

本調査結果は、2022年1月時点の大学等からの回答に基づき集計したものです。

(内訳1) 専攻区分別進路状況調査結果【大学院】

(上段: 留学生数(人) / 下段: 構成比)

専攻区分	日本国内				出身国(地域)				日本・出身国(地域)以外				小計	不明	卒業(修了) 留学生総数		
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計				計	
																就職	進学
人文科学	372	270	388	1,030	157	25	402	584	7	11	21	39	1,653	159	1,812		
	22.5%	16.3%	23.5%	62.3%	9.5%	1.5%	24.3%	35.3%	0.4%	0.7%	1.3%	2.4%	100.0%				
社会科学	1,103	300	717	2,120	951	27	1,071	2,049	21	18	46	85	4,254	416	4,670		
	25.9%	7.1%	16.9%	49.8%	22.4%	0.6%	25.2%	48.2%	0.5%	0.4%	1.1%	2.0%	100.0%				
理学	184	227	93	504	118	7	194	319	13	2	15	30	853	42	895		
	21.6%	26.6%	10.9%	59.1%	13.8%	0.9%	22.7%	37.4%	1.5%	0.2%	1.8%	3.5%	100.0%				
工学	1,531	829	581	2,941	832	50	808	1,690	29	40	40	109	4,740	359	5,099		
	32.3%	17.5%	12.3%	62.0%	17.6%	1.1%	17.0%	35.7%	0.6%	0.8%	0.8%	2.3%	100.0%				
農学	162	166	114	432	237	6	234	477	12	7	24	43	952	61	1,013		
	17.0%	16.4%	12.0%	45.4%	24.9%	0.6%	24.6%	50.1%	1.3%	0.7%	2.5%	4.5%	100.0%				
保健	181	132	146	459	204	10	171	385	7	3	14	24	868	79	947		
	20.9%	15.2%	16.8%	52.9%	23.5%	1.2%	19.7%	44.4%	0.8%	0.3%	1.6%	2.8%	100.0%				
家政	11	10	10	31	6	0	15	21	0	0	0	0	52	2	54		
	21.2%	19.2%	19.2%	59.6%	11.5%	0.0%	28.8%	40.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%				
教育	92	58	77	227	86	5	154	245	3	1	2	6	478	34	512		
	19.2%	12.1%	16.1%	47.5%	18.0%	1.0%	32.2%	51.3%	0.6%	0.2%	0.4%	1.3%	100.0%				
芸術	110	90	221	421	79	3	192	274	1	1	4	6	701	77	778		
	15.7%	12.8%	31.5%	60.1%	11.3%	0.4%	27.4%	39.1%	0.1%	0.1%	0.6%	0.9%	100.0%				
その他	569	285	435	1,289	377	22	716	1,115	8	16	16	40	2,444	157	2,601		
	23.3%	11.7%	17.8%	52.7%	15.4%	0.9%	29.3%	45.6%	0.3%	0.7%	0.7%	1.6%	100.0%				
合計	4,315	2,357	2,782	9,454	3,047	155	3,957	7,159	101	99	182	382	16,995	1,386	18,381		
	25.4%	13.9%	16.4%	55.6%	17.9%	0.9%	23.3%	42.1%	0.6%	0.6%	1.1%	2.2%	100.0%				